

ブレーキ

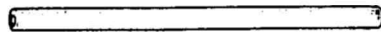
| | | | |
|------------------|-------|------------------|-------|
| 専用工具 | 13-2 | マスタ パワー | |
| 構成図 | 13-3 | 展開図、点検 | 13-18 |
| ブレーキ ペダル | | 点検 | 13-19 |
| 点検、調整 | 13-4 | 分解 | 13-21 |
| パーキング ブレーキ | | リペア キット | 13-23 |
| 点検、調整 | 13-5 | 組立て | 13-24 |
| フロント ブレーキ | | プッシュ ロッド クリアランスの | |
| 展開図、点検 | 13-6 | 点検、調整 | 13-27 |
| フロント ブレーキ パッド | | プッシュ ロッド ヨークの調整 | 13-28 |
| 点検、交換 | 13-7 | リヤ ディスク ブレーキ | |
| フロント ブレーキ キャリパ | | 展開図、点検 | 13-29 |
| 分解 | 13-9 | リヤ ブレーキ パッド | |
| 組立て | 13-10 | 点検、交換 | 13-30 |
| フロント ブレーキ ディスク | | リヤ ブレーキ キャリパ | |
| 振れの点検 | 13-11 | 分解 | 13-31 |
| 厚さおよび平行度の点検 | 13-11 | 組立て | 13-34 |
| エア抜き | 13-12 | リヤ ブレーキ ディスク | |
| マスタ シリンダ、マスタ パワー | | 振れの点検 | 13-38 |
| 構成図 | 13-13 | 厚さおよび平行度の点検 | 13-38 |
| マスタ シリンダ | | ブレーキ ホース | |
| 展開図、点検 | 13-14 | 点検 | 13-39 |
| 分解 | 13-15 | 交換 | 13-40 |
| 組立て | 13-16 | パーキング ブレーキ ケーブル | |
| | | 分解、組立て | 13-41 |

専用工具

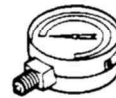
| No. | 工具番号 | 工具名称 | 備考 |
|-----|---------------|----------------------|-------------------|
| ① | 07921-0010100 | フレア ナット レンチ | 07949-6110000も使用可 |
| ② | 07510-6340300 | バキューム ジョイント チューブA | |
| ③ | 07404-5790300 | バキューム ゲージ | |
| ④ | 07410-5790500 | チューブ ジョイント アタッチメントI | |
| ⑤ | 07406-5790200 | オイル プレッシュャ ゲージ | |
| ⑥ | 07410-5790100 | プレッシュャ ゲージ アタッチメントC | |
| ⑦ | 07510-6340101 | プレッシュャ ゲージ ジョイント パイプ | |
| ⑧ | 07HAB-SF40100 | ブレーキ ブースタ ホルダ | |
| ⑨ | 07967-6790000 | パワー ユニット ハンドル | |
| ⑩ | 07749-0010000 | アウト ハンドルA | |
| ⑪ | 07947-6890300 | ドライバ アタッチメントC | |
| ⑫ | 07GAG-SD40100 | アジャスト ボルト ゲージ | |
| ⑬ | 07916-6390001 | ロックナット レンチ | |
| ⑭ | 07HAE-SG00100 | ブレーキ スプリング コンプレッサ | |
| ⑮ | 07914-SA50000 | スナップ リング プライヤ | |
| ⑯ | 07921-0010001 | フレア ナット レンチ | |



①



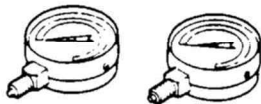
②



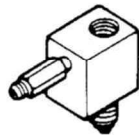
③



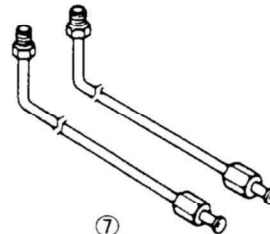
④



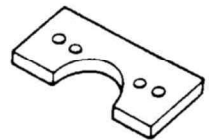
⑤



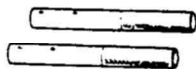
⑥



⑦



⑧



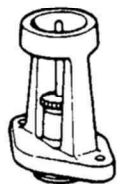
⑨



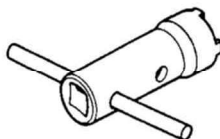
⑩



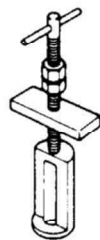
⑪



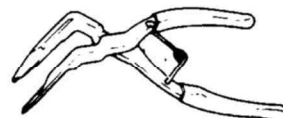
⑫



⑬



⑭



⑮



⑯

ブレーキ

構成図

マスタ シリンダ、マスタ パワー

・構成図 13-13頁

マスタ シリンダ

・展開図、点検 13-14頁

・分解 13-15頁

・組立て 13-16頁

マスタ パワー

・展開図、点検 13-18頁

・点検 13-19頁

・分解 13-21頁

・リペア キット 13-23頁

・組立て 13-24頁

・プッシュ ロッド クリアランスの点検、調整
13-27頁

・プッシュ ロッド ヨークの調整 13-28頁

リヤ ディスク ブレーキ

・展開図、点検 13-29頁

リヤ ブレーキ パッド

・点検、交換 13-30頁

リヤ ブレーキ キャリパ

・分解 13-31頁

・組立て 13-34頁

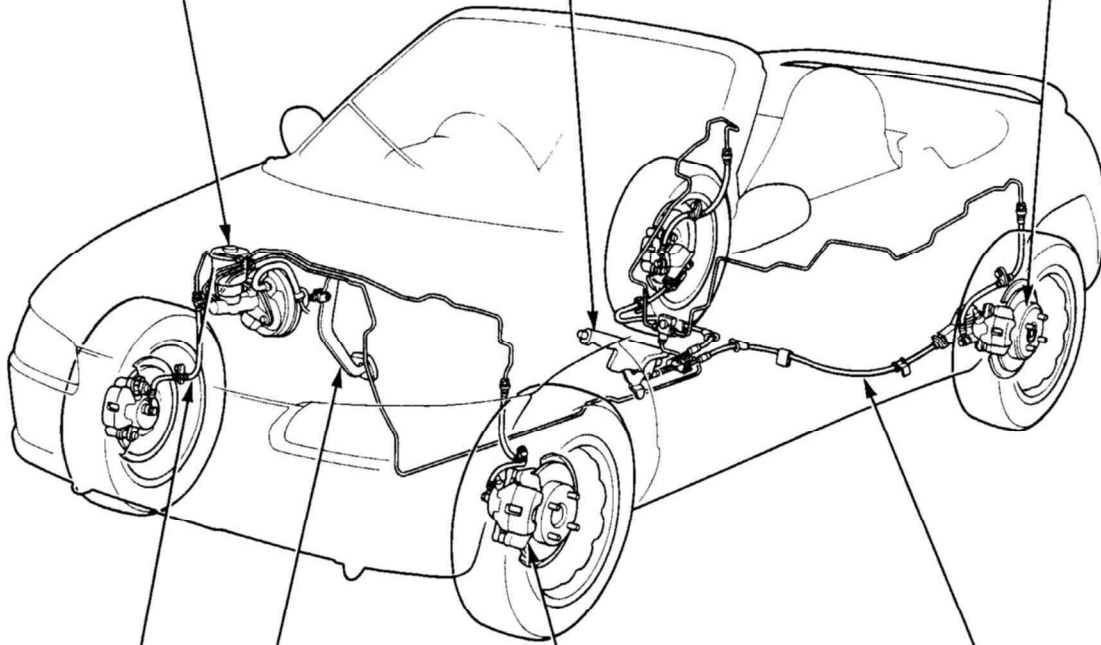
リヤ ブレーキ ディスク

・振れの点検 13-38頁

・厚さおよび平行度の点検 13-38頁

パーキング ブレーキ

・点検、調整 13-5頁



ブレーキ ペダル

・点検、調整 13-4頁

ブレーキ ホース

・点検 13-39頁

・交換 13-40頁

パーキング ブレーキ ケーブル

・分解、組立て 13-41頁

フロント ブレーキ

・展開図、点検 13-6頁

フロント ブレーキ パッド

・点検、交換 13-7頁

フロント ブレーキ キャリパ

・分解 13-9頁

・組立て 13-10頁

フロント ブレーキ ディスク

・振れの点検 13-11頁

・厚さおよび平行度の点検 13-11頁

ブレーキ ペダル

点検、調整

点検

①遊び

エンジンを停止させた状態で、2～3回ブレーキペダルを踏み込んだのちに、ブレーキペダルを指で押し、抵抗を感じるまでの移動量(遊び)を測定する。

遊び：1～10mm

②踏み込んだときの床板とのすき間

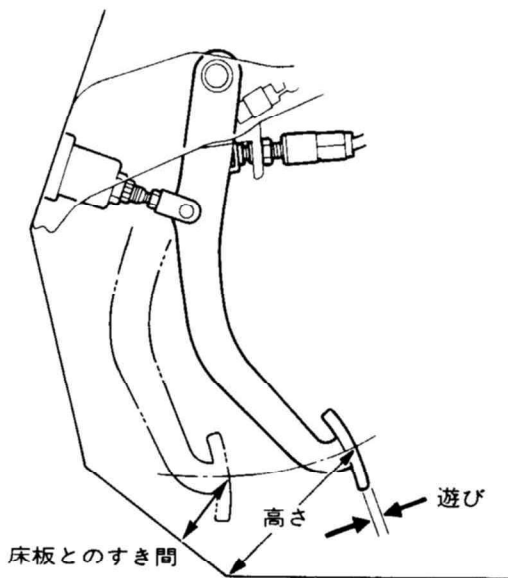
エンジンを始動し、2～3回ブレーキペダルを踏み込んだのち、ブレーキペダルを力強く(踏力20kg)5秒以上踏み続けて床板(フロア鉄板面)とのすき間を測定する。

床板とのすき間：113mm以上

③高さ

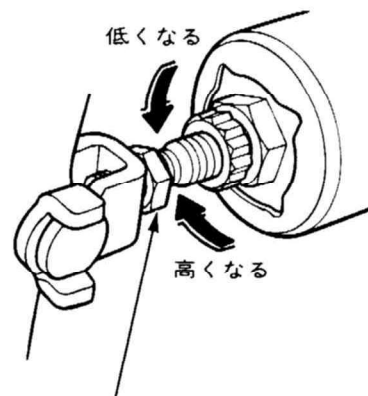
ブレーキペダルを踏まない状態で、床板(フロア鉄板面)からブレーキペダル踏面までの高さを測定する。

高さ：149mm



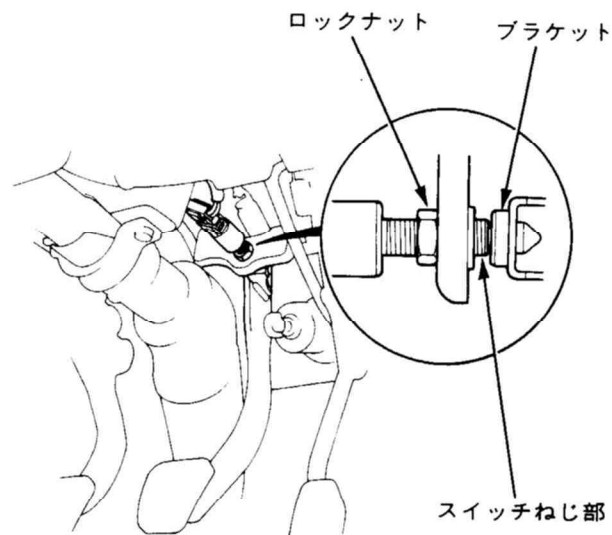
高さ調整

①プッシュロッドの8mmナットをゆるめ、プッシュロッドを回してペダル高さを基準値に調整し、8mmナットを締付ける。



8mmナット
トルク 1.5kg-m

②ストップライトスイッチのロックナットをゆるめ、スイッチのねじ部端面がペダルストップブラケットにあたるまでスイッチを回し、ロックナットを締付ける。



注意

- ・ペダル調整時、プッシュロッドを押した状態では調整しないこと。
- ・遊びがないと、ブレーキ引きずりが起こる場合があるので必ず点検する。
- ・調整後、ペダルが自由な状態では、ストップライトが点灯していないことを確認する。

パーキング ブレーキ

点検、調整

点検

パーキング ブレーキ レバーをいっぱいに戻した状態からゆっくり引き上げて(操作力20kg)、レバーがロックするまでの引きしろを点検する。

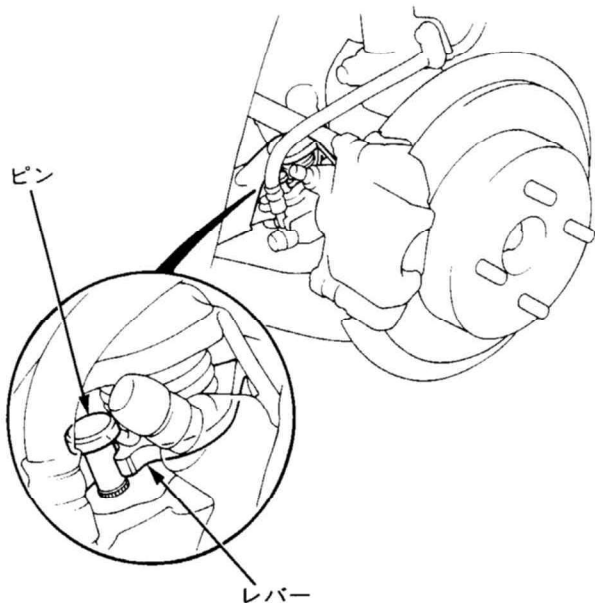
パーキング ブレーキ引き代：5－9ノッチ

調整

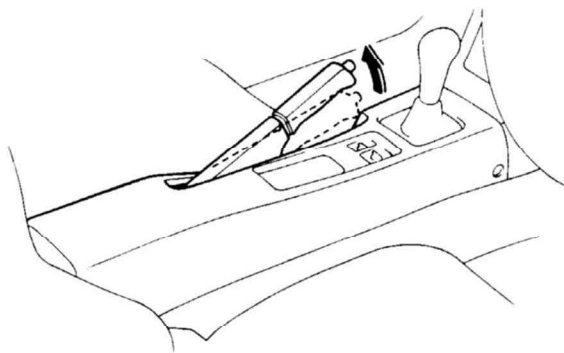
注意 別作業でリヤ キャリパを取外した場合は、リヤ キャリパを取付け後センタ コンソール内のアジャスト ナットをゆるめ、エンジンをかけ、ブレーキ ペダルを数回強く踏み込んでから、調整を行う。

①車体後部をジャッキ アップして、サイド シル補強部にリジッド ラックをあてがい、パーキング ブレーキ レバーを戻す。

②次に、リヤ キャリパのレバーがピンにあまっていることを確認する。



③パーキング ブレーキ レバーを1ノッチ引く。



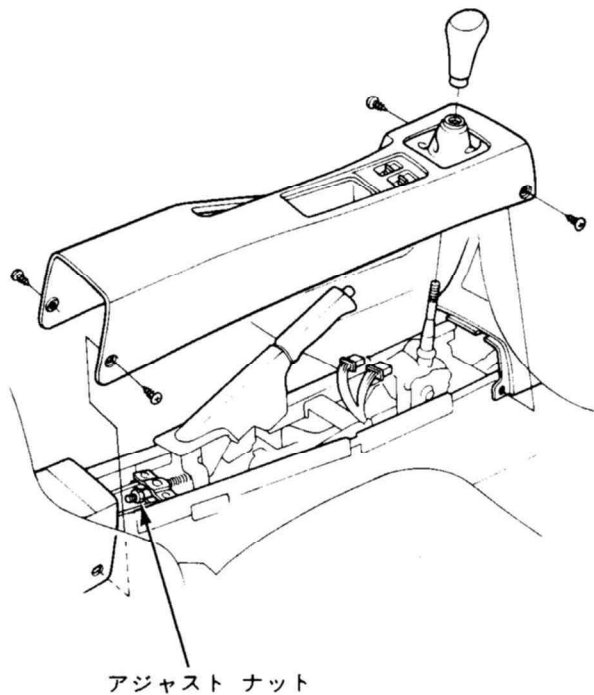
④アジャスト ナットを、後輪が軽く引掛ってまわるところまで、締込む。

⑤パーキング ブレーキ レバーを戻して、後輪をまわし引掛りがないことを確認し、パーキング ブレーキの引き代を点検する。

パーキング ブレーキ引き代：5－9ノッチ

全ストローク：19ノッチ

(操作力20kgにて、パーキング ブレーキ レバーを引いた状態)

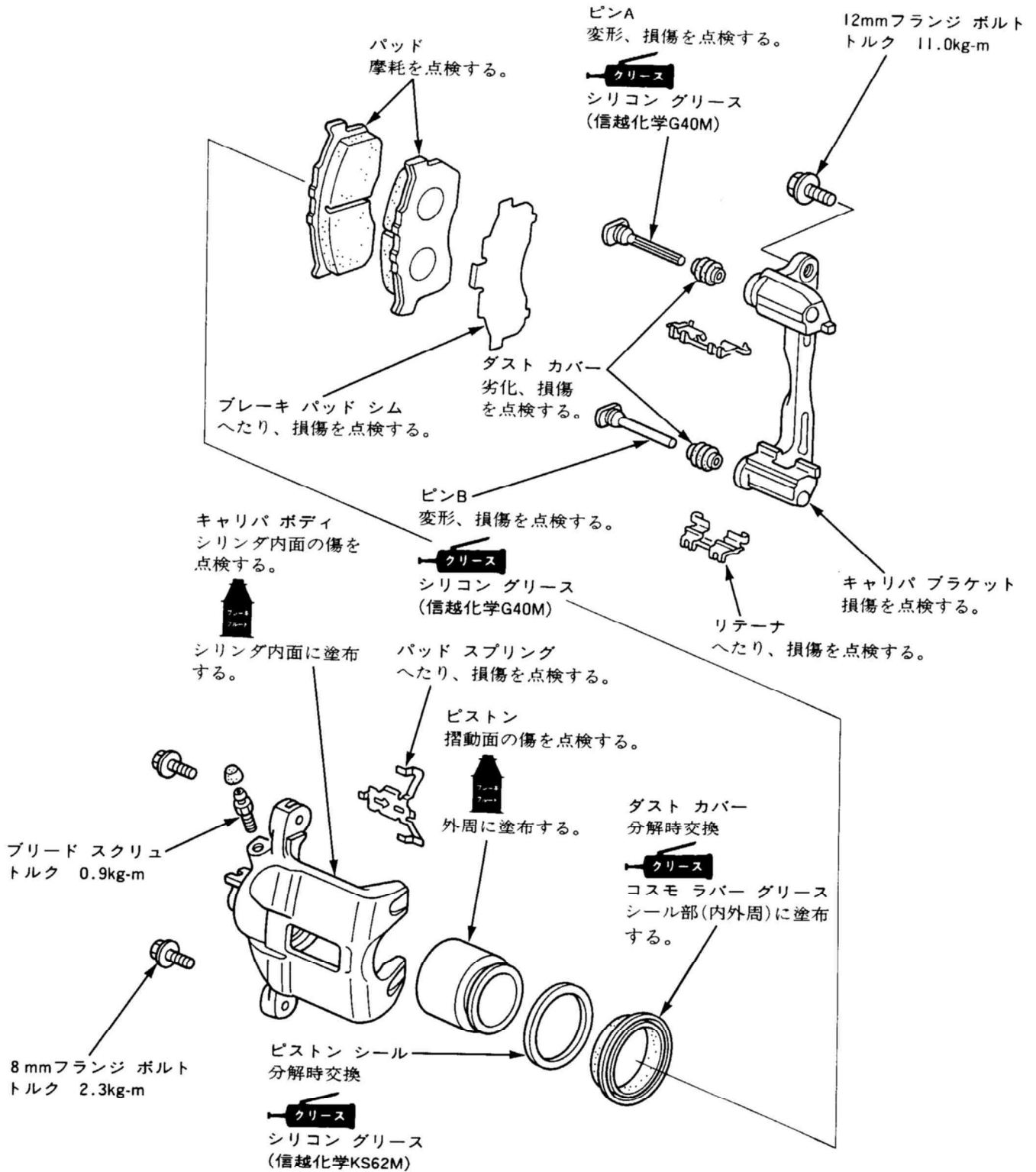


フロント ブレーキ

展開図、点検

注意

- ・交換が指定されている部品は必ず新品に交換する。
- ・シリンダ内、ピン摺動部およびダスト カバー内部に異物を混入させないこと。
- ・パッドの制動面にブレーキ フルード、油脂類を付着させないこと。
- ・分解した部品は、ゴミやホコリが付かないように整理しておく。

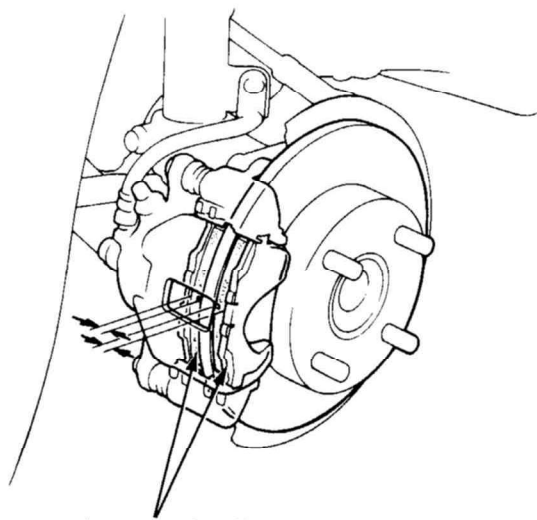


フロント ブレーキ パッド

点検、交換

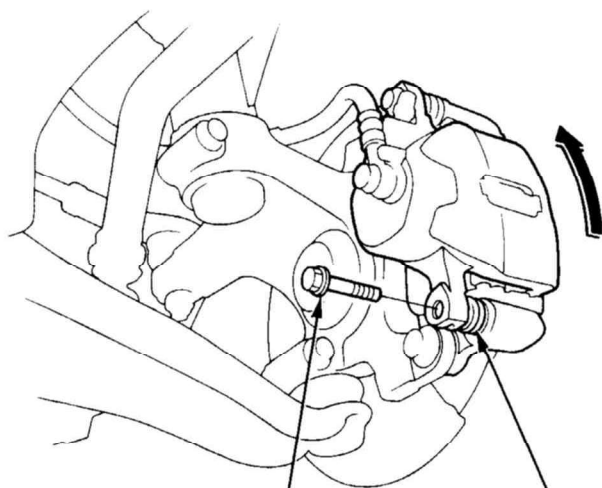
パッドの厚さが使用限度の場合は、内側と外側のパッドをセットで交換する。

*****セットで交換した場合、最初にブレーキペダルを踏込んだとき、ペダルストロークが深くなるが異常ではない。何回か踏込むうちにペダルが上がってくる。



ブレーキパッド

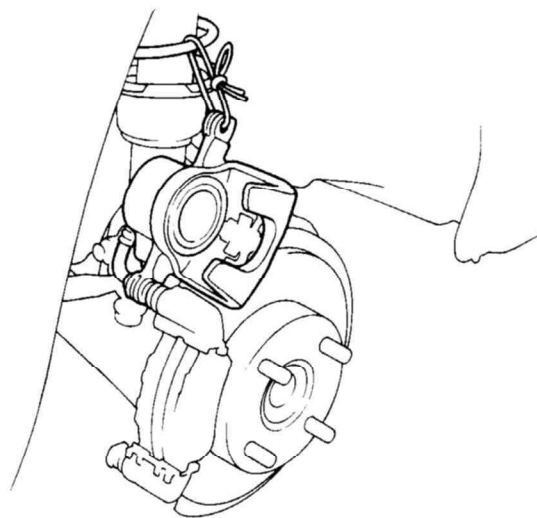
- ① キャリパピンB締付けボルトを外し、キャリパボディを持ち上げる。



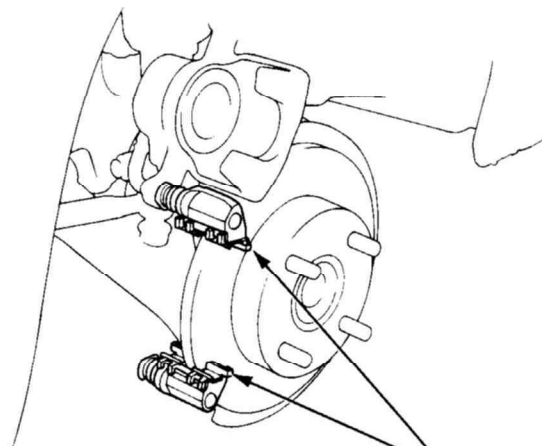
キャリパピンB締付けボルト

ピンB

- ② キャリパボディを針金等で固定する。



- ③ リテーナを取外し、清掃する。
④ キャリパブラケットを清掃する。
⑤ リテーナを取付ける。



リテーナ

フロント ブレーキ パッド

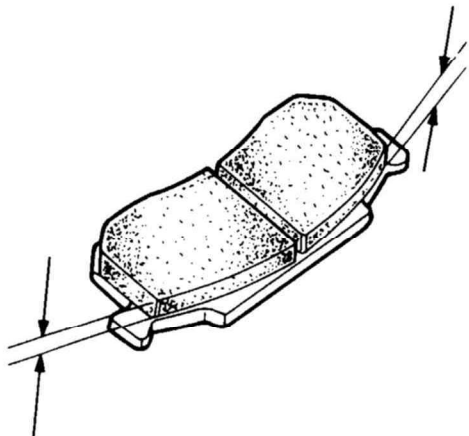
点検、交換

⑥パッド、パッド シムを取外して、パッドの厚さを点検する。

パッドの厚さ

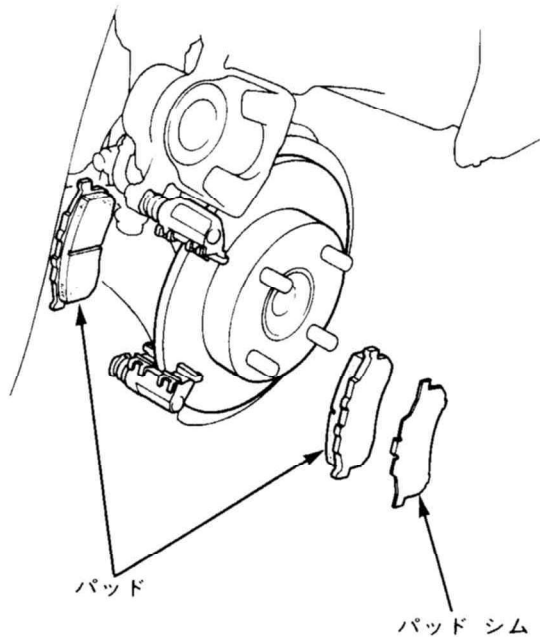
標準値：10.0mm

限度値：1.6mm



⑦パッド、パッド シムを取付ける。

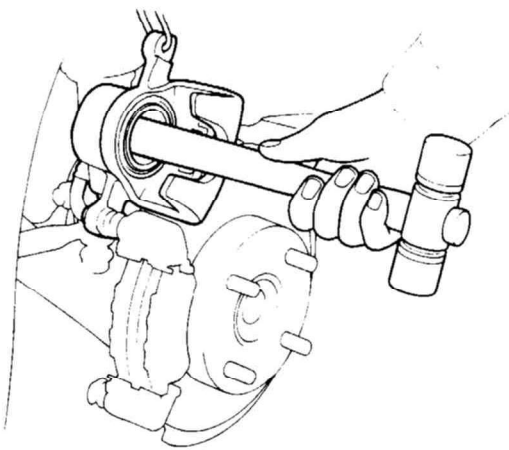
注意 パッド シムは、外側に組付ける。



⑧キャリパ ボディを清掃する。

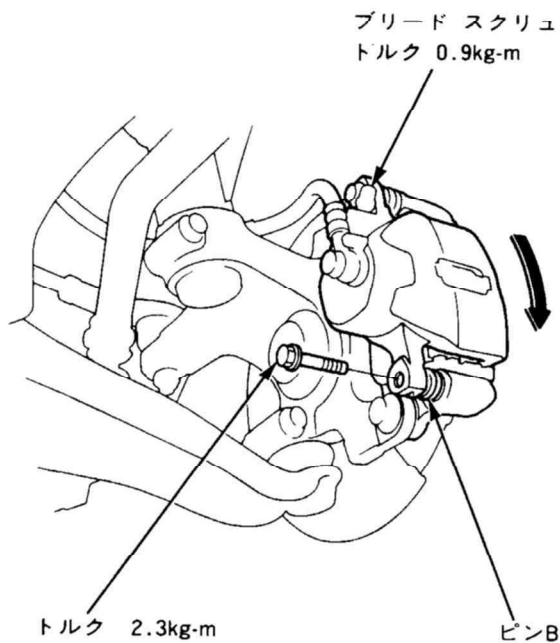
⑨ブリード スクリューをゆるめ、ブレーキ フルードを少量抜き、ピストンを静かに押込む。

注意 ブレーキ フルードは塗装面を傷めるので、部品類に付着させないこと。



⑩ブリード スクリューを締付ける。

⑪キャリパ ボディを回転させて、キャリパ ピンB締め付けボルトで組付ける。



⑫ブレーキ ペダルを数回踏んで、ブレーキが効くことを確認する。

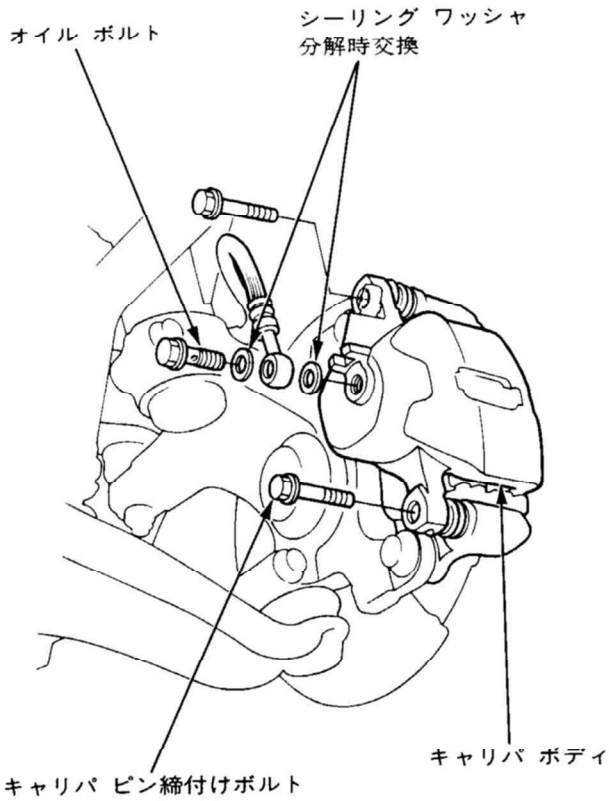
フロント ブレーキ キャリパ

分解

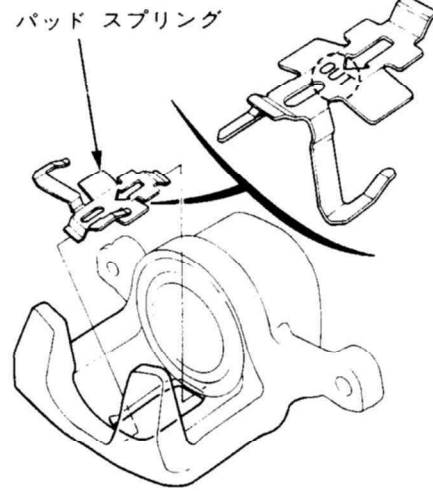
注意

- ・ブレーキフルードは塗装面を傷めるので、部品類に付着させないこと。付着した場合は、すぐに水で洗い流すこと。
- ・ブレーキフルードの流出を防ぐため、ホース、ジョイント部をカバーしておくこと。
- ・分解した部品はブレーキフルードで洗浄し、圧縮空気等により各ポートの通気を確認すること。
- ・分解した部品は、ゴミやホコリが付かないように整理しておくこと。

- ①オイルボルトを外し、ブレーキホースをキャリパボディから取外す。
- ②キャリパピン締付けボルトを外し、キャリパボディを取外す。

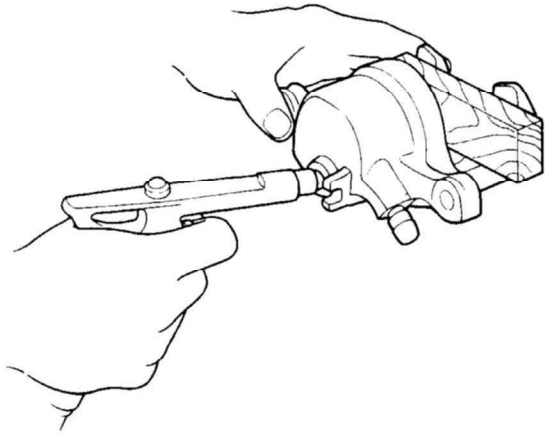


- ③キャリパボディからパッドスプリングを取外す。

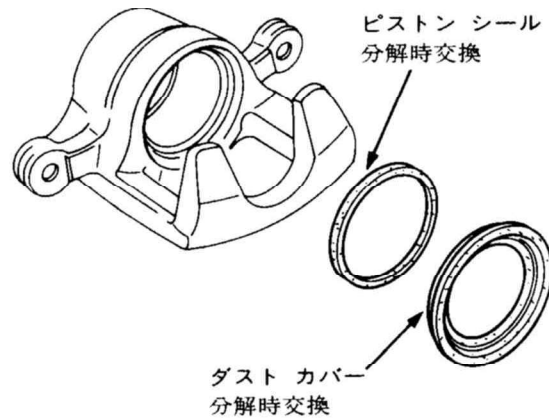


- ④ブレーキホース取付け口から圧縮空気を入れて、ピストンを吹出す。

注意 ピストンが勢いよく飛出す場合があるので、手などをキャリパの内側に入れないように注意すること。



- ⑤ダストカバー、ピストンシールを取外す。



フロント ブレーキ キャリパ

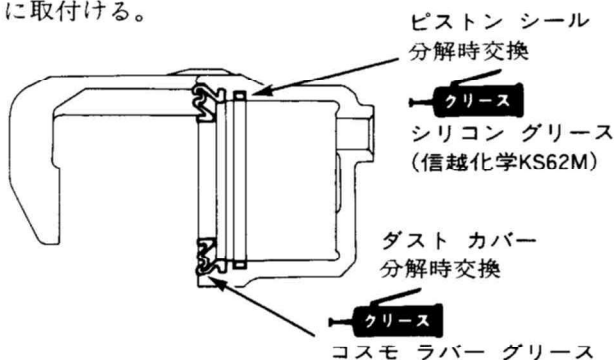
組立て

注意

- ・各部品にゴミやホコリが付いていないことを確認してから、組立て作業を行うこと。
- ・交換が指定されている部品は、必ず交換すること。
- ・ブレーキフルード補給時に、ゴミや水を混入させないこと。
- ・化学変化を防止するため、銘柄の異なるブレーキフルードを使用しないこと。
- ・ブレーキフルードはDOT 3 または DOT 4 を使用すること。
- ・抜取ったブレーキフルードは再使用しないこと。
- ・ブレーキフルードは塗装面を傷めるので、部品類に付着させないこと。付着した場合は、すぐに水で洗い流すこと。

①新品のピストン シールにシリコン グリース(信越化学KS62M)を塗布して、キャリパ ボディの溝に取付ける。

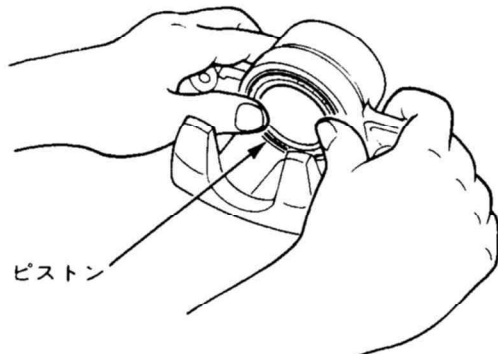
②新品のダスト カバーのシール部(内外周)にコスモラバー グリースを塗布して、キャリパ ボディの溝に取付ける。



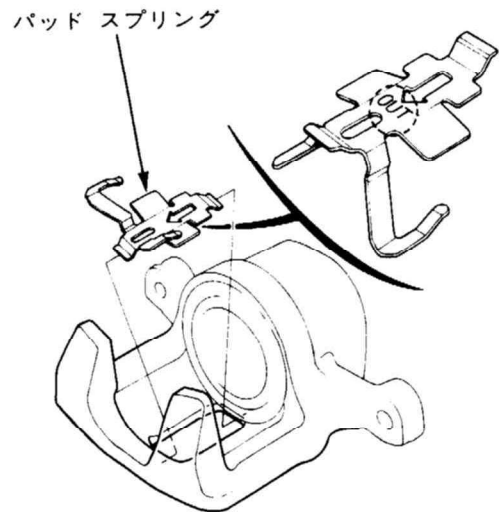
③ピストン外周、キャリパ ボディのシリンダ内面にブレーキフルードを塗布して組付ける。

注意

- ・斜めに入れたり、無理に押込まないこと。
- ・ダスト カバーを損傷しないように注意すること。



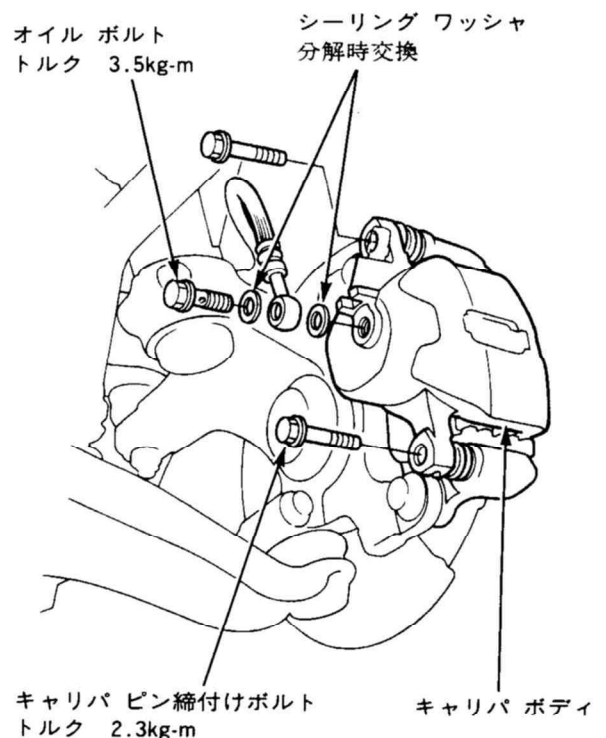
④パッド スプリングをキャリパ ボディに取付ける。



⑤キャリパ ボディをブラケットにキャリパ ピン締付けボルトで取付ける。

⑥ブレーキ ホースをオイル ボルトと新品のシーリング ワッシャで取付ける。

⑦エア抜きを行う(13-12頁参照)。



フロント ブレーキ ディスク

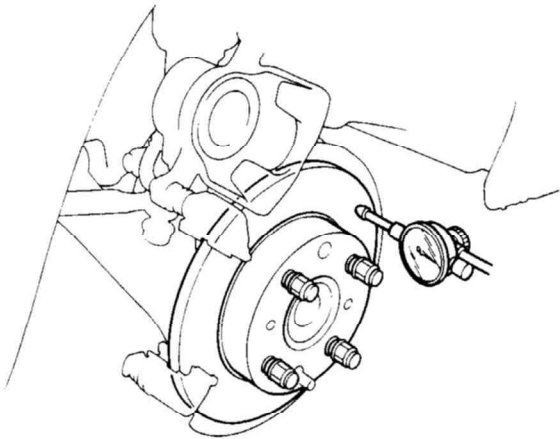
振れの点検

- ①ホイール ボルトに3mm厚くらいのワッシャを通し、ホイール ナット(12×1.5mm)でディスクを確実に固定する。
- ②ディスクの外周から約10mm中央よりの位置に、下図のようにダイヤル ゲージを当てる。
- ③手でディスクをゆっくり回して振れを測定する。

ブレーキ ディスクの振れ:

限度値: 0.1mm

限度値以上の場合、ハブ ベアリングを点検し、異常がなければブレーキ ディスクを交換する。



厚さおよび平行度の点検

- ①ブレーキ ディスクの厚さを、ディスクの外周から10mmの位置で、約45°間隔で8箇所測定する。

ブレーキ ディスクの厚さ:

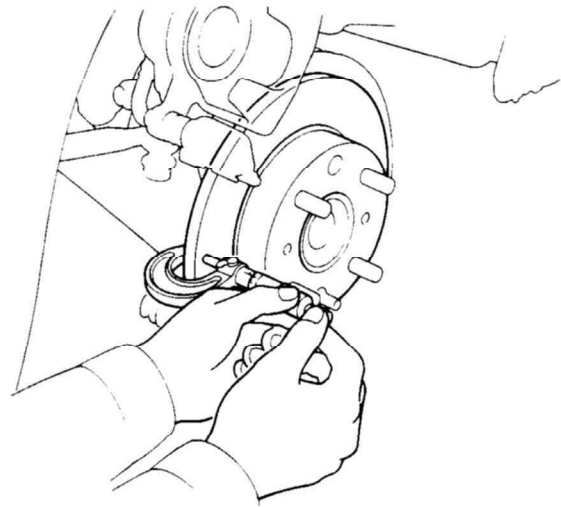
標準値: 10.0mm

限度値: 8.0mm

ブレーキ ディスクの平行度(各測定値の差の最大値):

限度値: 0.015mm

限度値を外れる場合は、ブレーキ ディスクを交換する。



- ②ブレーキ ディスクの摺動面の傷、亀裂、段付き摩耗を点検する。

エア抜き

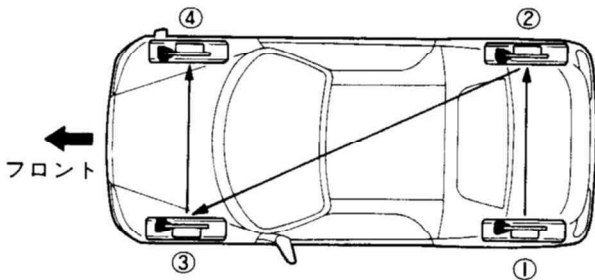
注意

- ・ブレーキフルード補給時に、ゴミや水を混入させないこと。
- ・化学変化を防止するため、銘柄の異なるブレーキフルードを使用しないこと。
- ・ブレーキフルードはDOT 3 または DOT 4 を使用すること。
- ・ブレーキフルードは塗装面を傷めるので、部品類に付着させないこと。付着した場合はすぐに水で洗い流すこと。

★・エア抜きを始める前に、マスタシリンダのリザーブタンクにブレーキフルードをMAXまで注入する。また、作業中も絶えず容量に注意して、リザーブタンクが空にならないようにする。

- ・ペダルのポンピングはゆっくり行う。

エア抜き手順

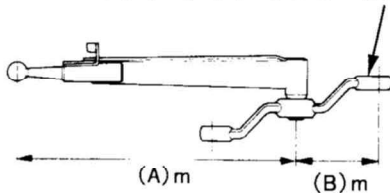


- ①アシスタントは、ブレーキペダルを数回ポンピングし、強く踏込んだままとする。
- ②ブリードスクリュをゆるめて、エアをブレーキフルードとともに排出させる。フルードが勢いよく流れ出なくなったら(ブレーキペダルが床についたら)、ブリードスクリュを規定トルクで締める。

★フレアナットレンチを用いて、下記の方法でトルク表示を読み取る。

専用工具

フレアナットレンチ 07921-0010100

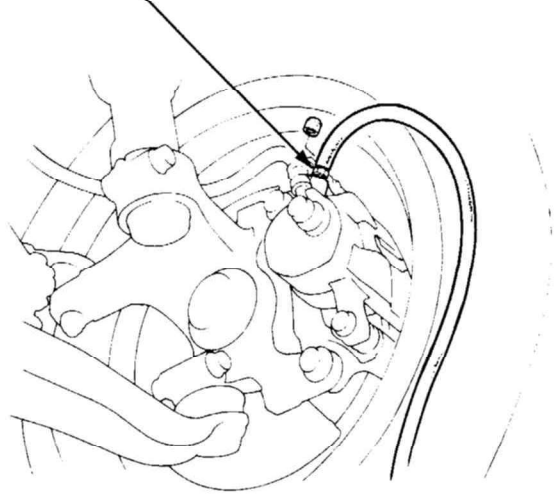


$$\frac{(A)}{(A)+(B)} = (C)$$

(C) × 規定トルク (kg-m) = 読み取り
トルク (kg-m)

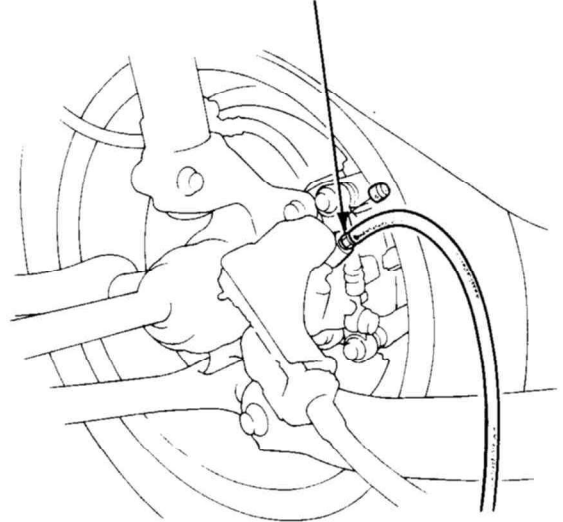
・フロント ブレーキ

ブリード スクリュ
トルク 0.9kg-m



・リヤ ブレーキ

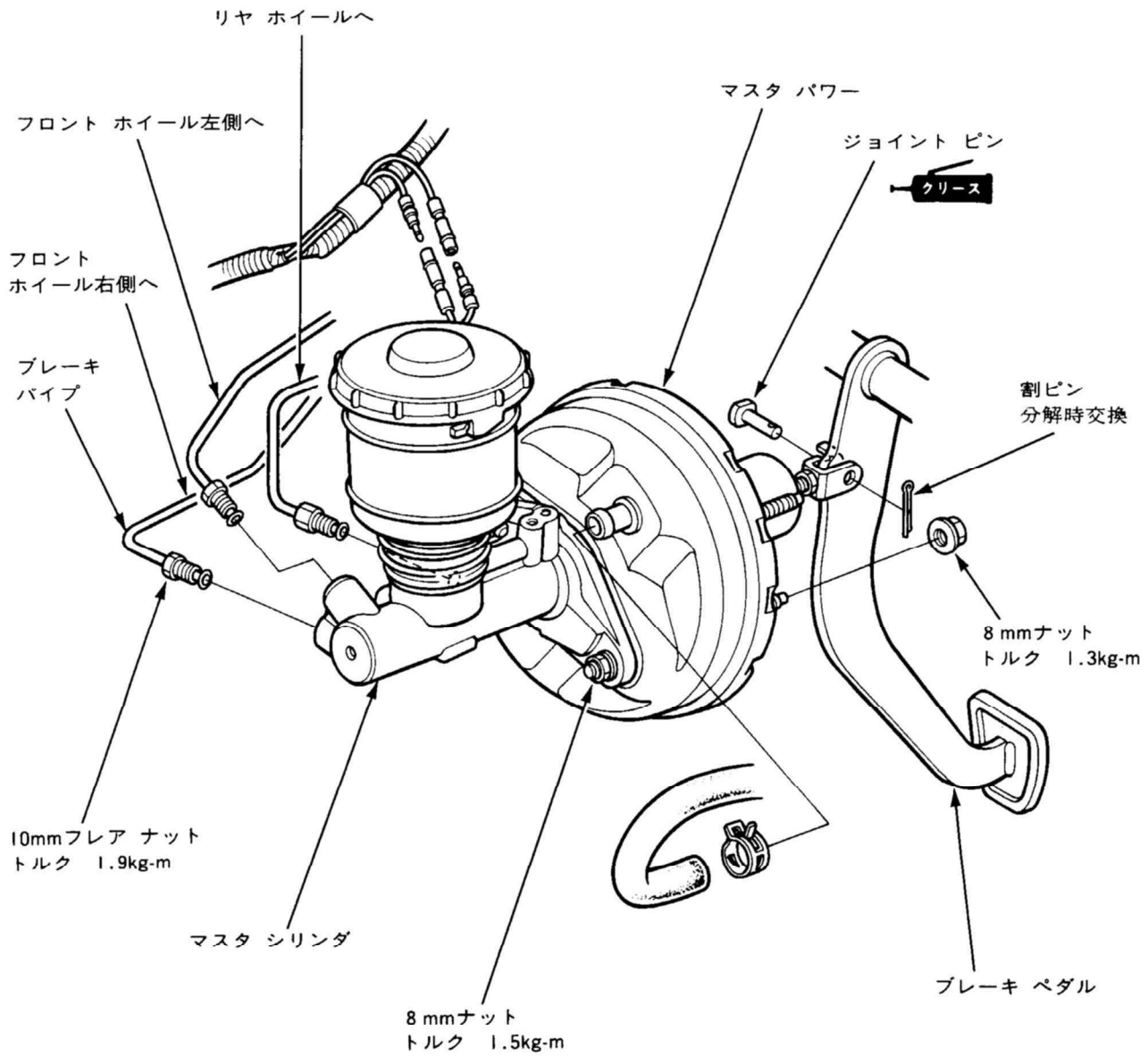
ブリード スクリュ
トルク 0.9kg-m



- ③上記の作業を、各輪ともエアが抜けるまで行う。作業完了後、ブリードスクリュキャップを各ブリードスクリュに取付ける。
- ④安全な場所で試走して、ブレーキの効き具合を確認する。

マスタ シリンダ、マスタ パワー

構成図

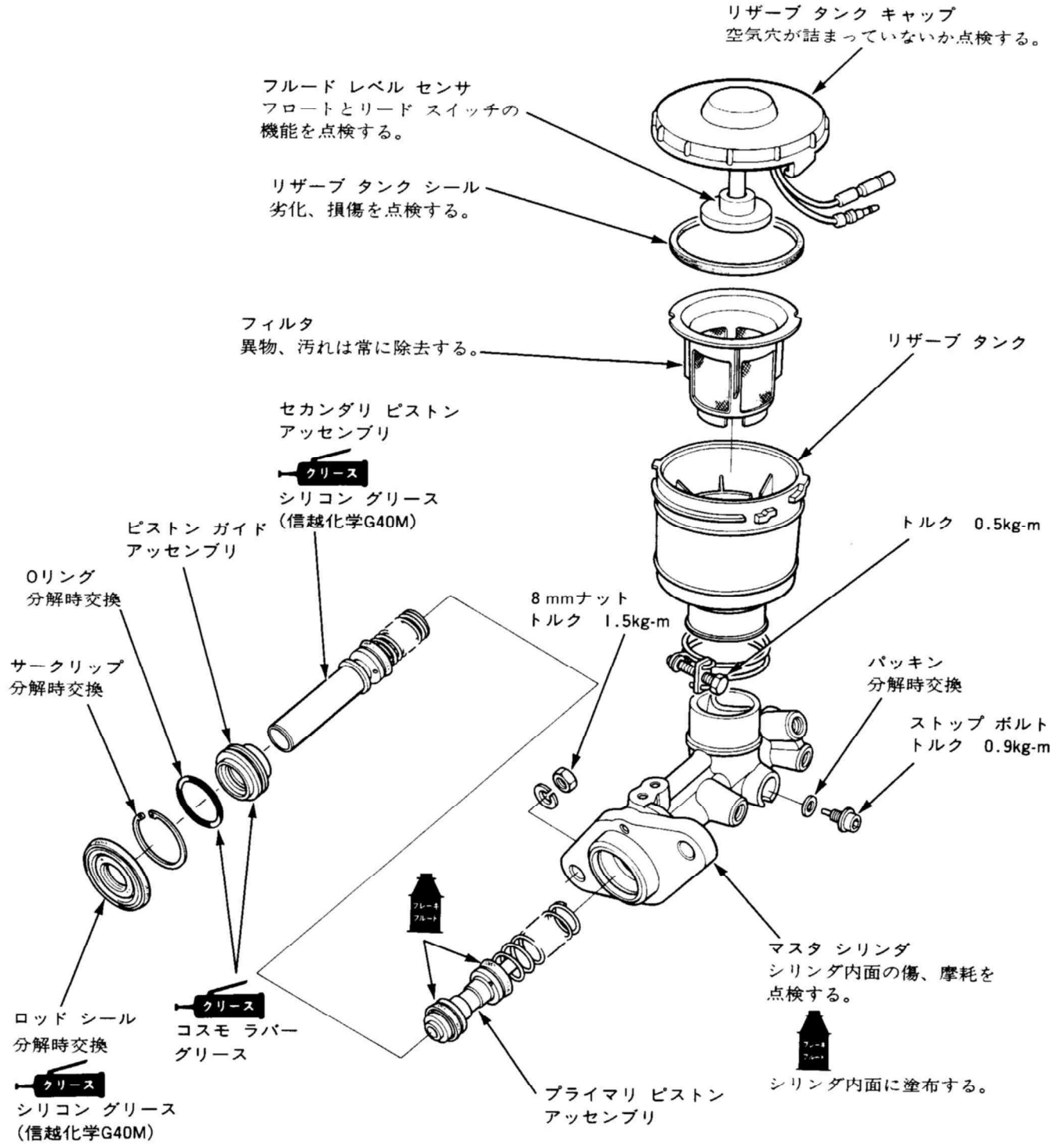


マスタ シリンダ

展開図、点検

注意

- ブレーキ フルードは塗装面を傷めるので部品類に付着させないこと。付着した場合は、すぐに水で洗い流すこと。
- 交換が指定されている部品は、必ず新品に交換すること。
- 分解部品はブレーキ フルードで洗浄し、圧縮空気で乾燥させる。
- ブレーキ フルードはDOT 3またはDOT 4を使用すること。
- 化学変化を防止するため、銘柄の異なるブレーキ フルードを使用しないこと。

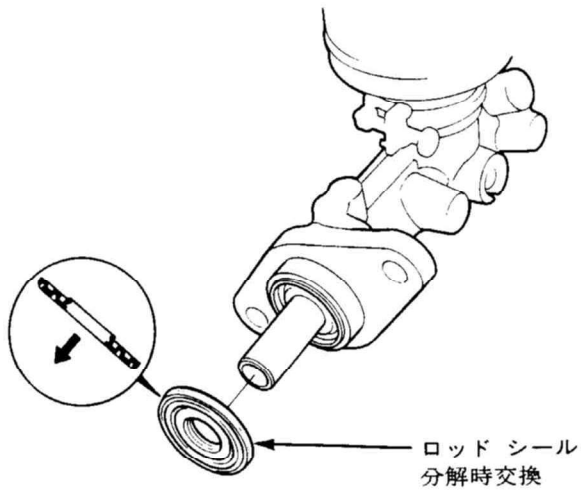


分解

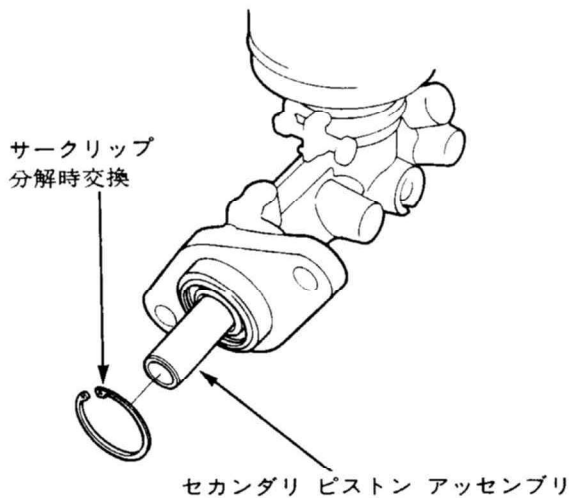
注意

- ・ブレーキフルードは塗装面を傷めるので、部品類には付着させないこと。付着した場合は、すぐに水で洗い流すこと。
- ・ブレーキフルードの流出を防ぐため、ホース、ジョイント部をカバーしておく。
- ・分解した部品はブレーキフルードで洗浄し、圧縮空気等により各ポートの通気を確認すること。
- ・分解した部品は、ゴミやほこりが付かないように整理しておくこと。
- ・ブレーキパイプに傷をつけたり、大きく変形させないように注意して脱着すること。

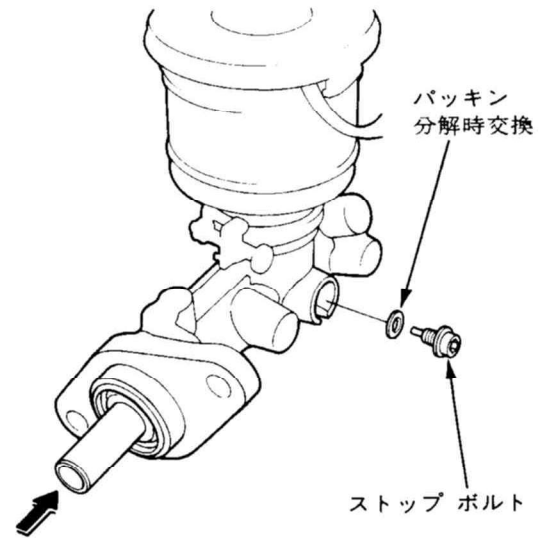
① ロッドシールを取外す。



② セカンダリピストンアセンブリを押し、サークリップを取外す。



③ セカンダリピストンアセンブリを押し込んで、ストップボルトを取外す。



④ ピストンガイドアセンブリ、セカンダリピストンアセンブリ、プライマリピストンアセンブリを取外す。

★プライマリピストンアセンブリが外しづらいときは、プライマリ側の穴から、圧縮空気を吹込むとよい。

注意 ピストンが勢いよく飛び出す場合があるので、ウエス等で保護して作業を行う。

⑤ ブレーキフルードで各部品を洗浄する。

マスタ シリンダ

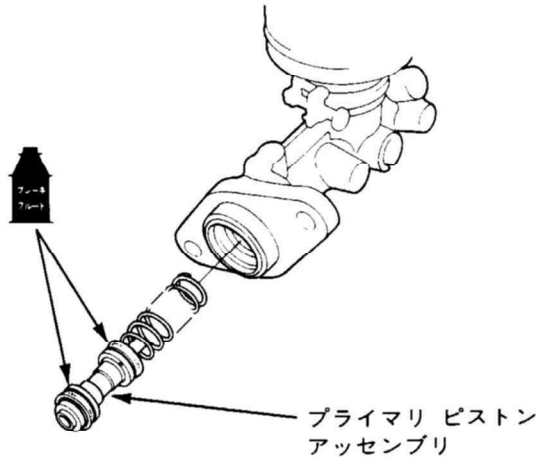
組立て

注意

- ・各部品にゴミやホコリが付いていないことを確認してから、組立て作業を行うこと。
- ・交換が指定されている部品は、必ず交換すること。
- ・ブレーキフルード補給時に、ゴミや水を混入させないこと。
- ・化学変化を防止するため、銘柄の異なるブレーキフルードを使用しないこと。
- ・抜き取ったブレーキフルードは再使用しないこと。
- ・ブレーキフルードは塗装面を傷めるので、部品類に付着させないこと。付着した場合は、すぐに水で洗い流すこと。

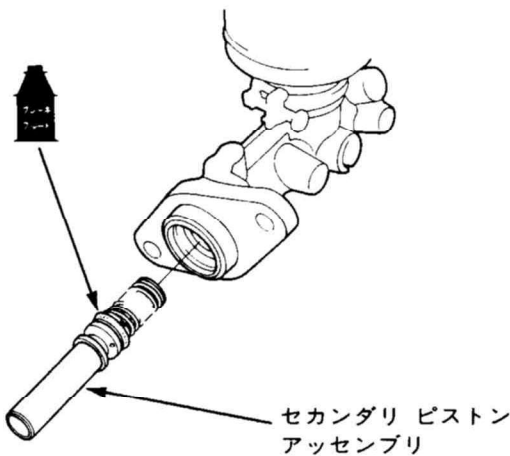
①プライマリピストンアセンブリをマスタシリンダに組込む。

★プライマリピストンはAssy.で交換する。



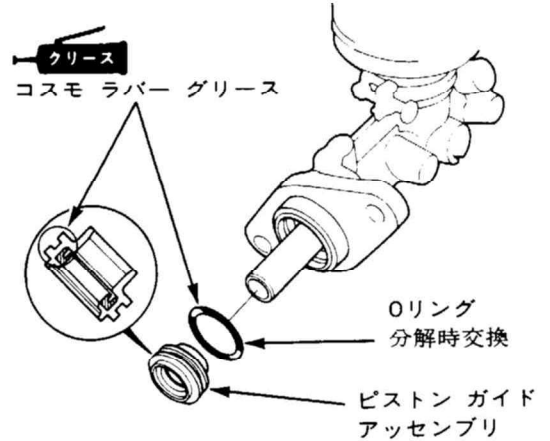
②セカンダリピストンアセンブリをマスタシリンダに組込む。

★セカンダリピストンはAssy.で交換する。

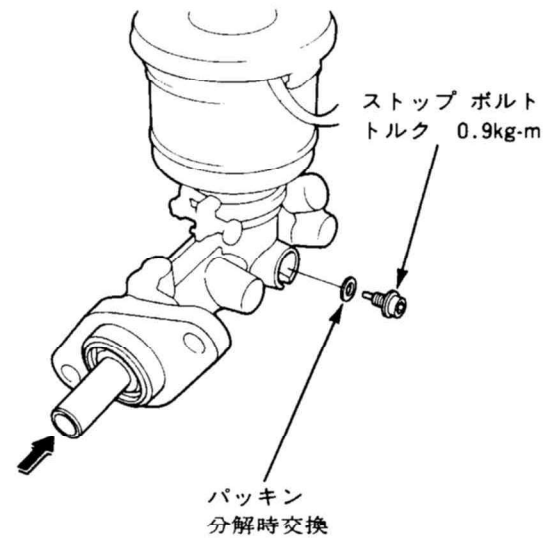


③ピストンガイドアセンブリと新品のOリングにコスモラバーグリースを塗布し、マスタシリンダボディに組込む。

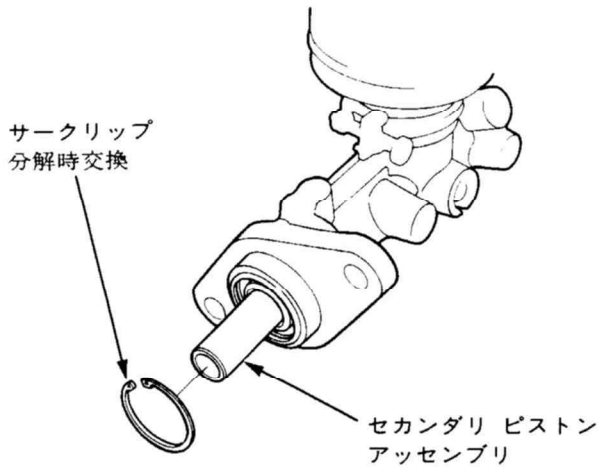
★ピストンガイドアセンブリは組付け方向があるので注意する。



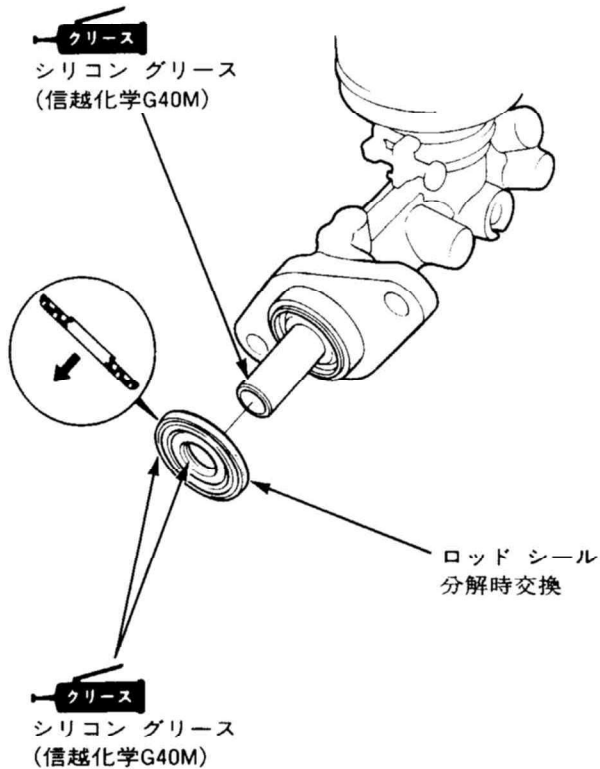
④セカンダリピストンを押し込み、ストップボルトを新品のパッキンと共に取付ける。



- ⑤セカンダリ ピストン アッセンブリを押込み、ボディの溝に新品のサークリップを取付ける。



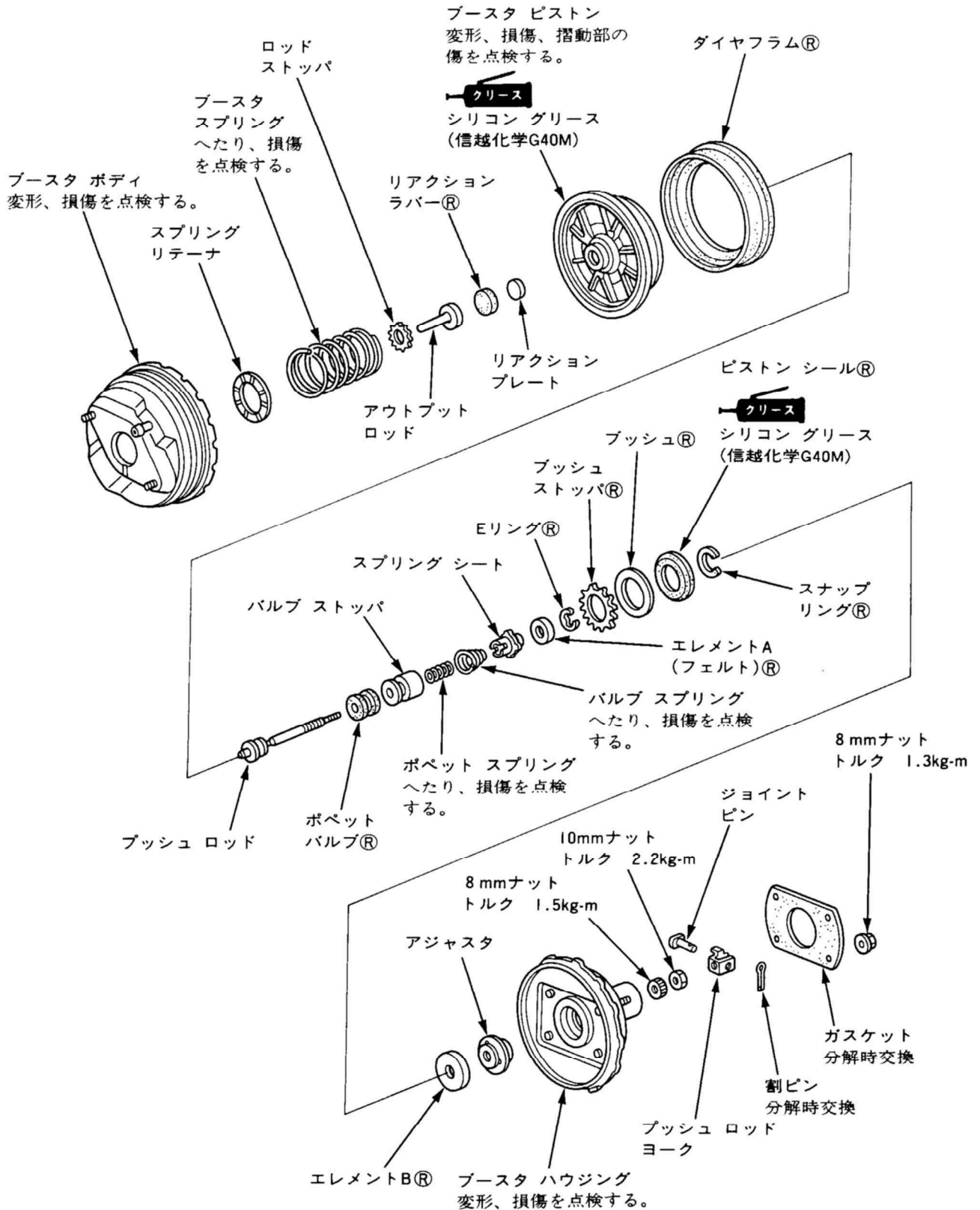
- ⑥セカンダリ ピストンと新品のロッド シールにシリコン グリース(信越化学G40M)を塗布し、ロッド シールを取付ける。



マスタ パワー

展開図、点検

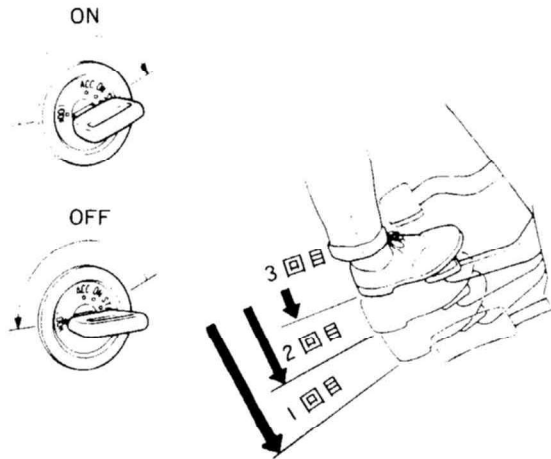
注意 ㊞マークはリペア キット部品を示す。分解時は必ずキットを使用し、新品に交換する。



点検

工具を使用しない気密チェック

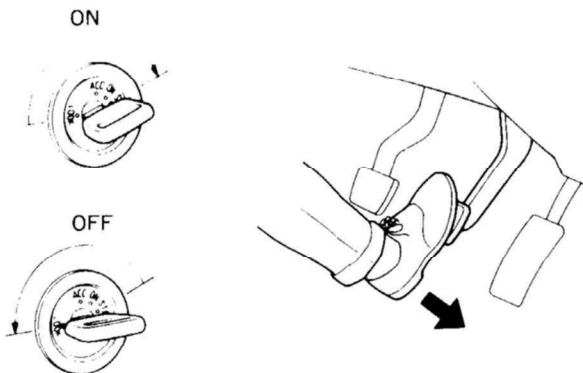
- ①エンジンを始動し、1～2分間回転させる。
- ②エンジンを停止する。
- ③通常のブレーキ踏力で、ペダルを踏込む。
- ④1回目はペダル ストロークが大きく、2～3回ペダルを踏込む回数にしたがって、ペダル ストロークが小さくなれば良好である。



*気密不良の場合は、下記部品の気密状態を点検する。

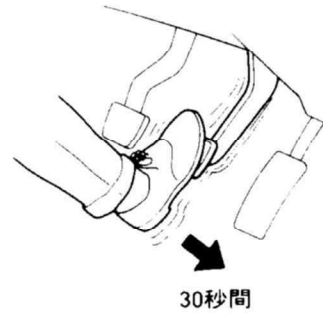
- ・チェック バルブ
- ・バキューム ホース、パイプ
- ・マスタ パワー内の各シール
- ・ダイヤフラム取付け部
- ・マスタ シリンダのロッド シールまたはセカンダリ カップ

- ⑤再度、エンジンを始動する。
- ⑥通常の踏力でペダルを踏む。
- ⑦その状態でエンジンを停止する。



- ⑧約30秒間、ペダルを踏込んだ状態を保つ。

この時、ペダル高さが変化しなければ負荷時の気密は良好である。



マスタ パワー

点検

気密テスト

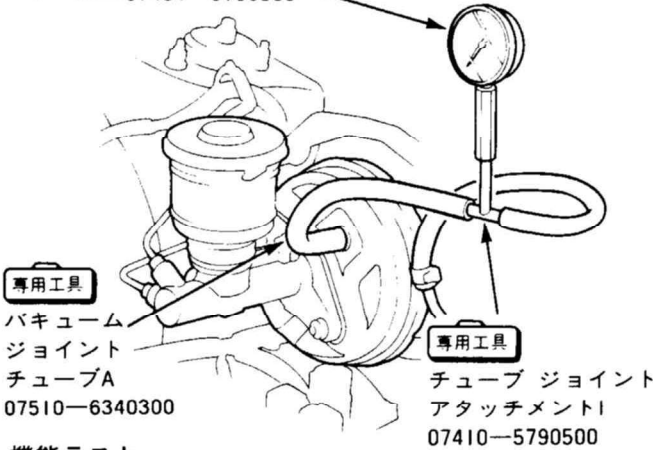
- ①専用工具を、下図のようにセットする。
- ②エンジンを始動して、バキューム ゲージが300—500 mmHgを示すように、アクセル ペダルで調整して、エンジンを止める。
- ③バキューム ゲージの値を読む。

基準負圧減少度：20mmHg以下（30秒間）

- ④気密不良の場合は、下記部品の気密状態を点検する。

- ・チェック バルブ
- ・バキューム ホース、パイプ
- ・ブレーキ ブースタ内の各シール
- ・ダイヤフラム取付け部
- ・マスタ シリンダのロッド シールまたはセカンダリ カップ

専用工具
バキューム ゲージ
07404—5790300



専用工具
バキューム
ジョイント
チューブA
07510—6340300

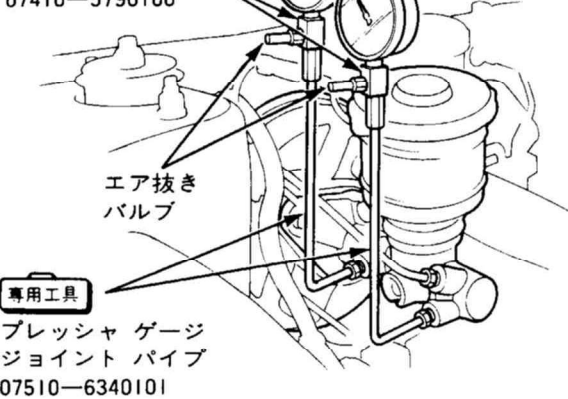
専用工具
チューブ ジョイント
アタッチメントI
07410—5790500

機能テスト

- ①専用工具を、下図のようにセットする。
- ②バルブから、エア抜きを行う。

専用工具
プレッシャ ゲージ
アタッチメントC
07410—5790100

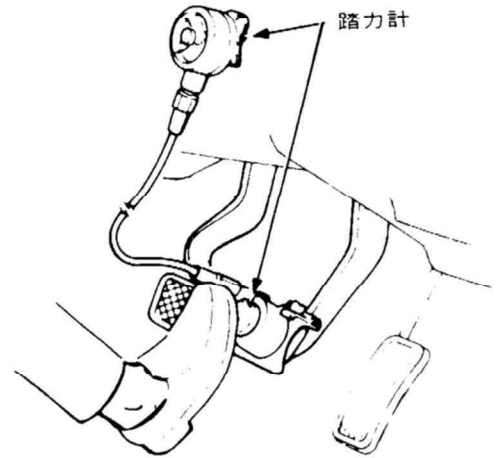
専用工具
オイル プレッシャ
ゲージ
07406—5790200



エア抜き
バルブ

専用工具
プレッシャ ゲージ
ジョイント パイプ
07510—6340101

- ③エンジンを始動する。
- ④ブレーキ ペダルを踏力20kgで踏み、各負圧で下記油圧が発生すれば良い。

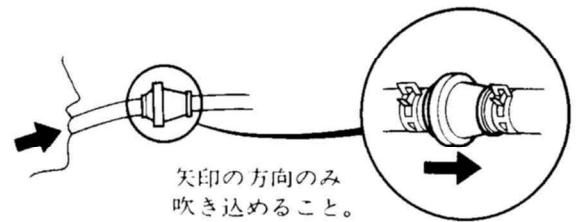


| 負圧(mmHg) | 踏力(kg) | 出力特性(kg/cm ²) |
|----------|--------|---------------------------|
| 0 | 20 | 9.6以上 |
| 300 | 20 | 29.9以上 |
| 500 | 20 | 43.4以上 |

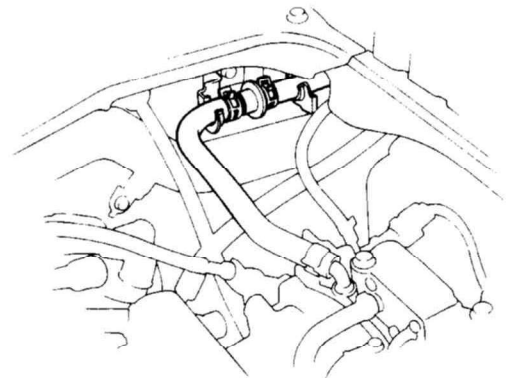
- ⑤基準の出力特性が得られない場合は、マスタ シリンダのピストン カップを点検する。

チェック バルブ

チェック バルブのブレーキ ブースタ側から吹き込んだときのみ吹き込めて、逆方向から吹いたときに吹き込めなければ良い。



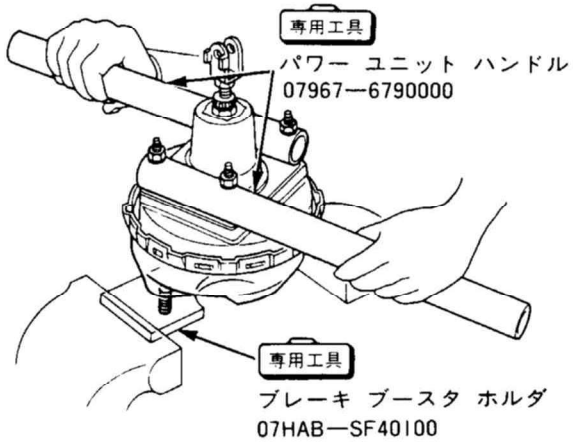
矢印の方向のみ
吹き込めること。



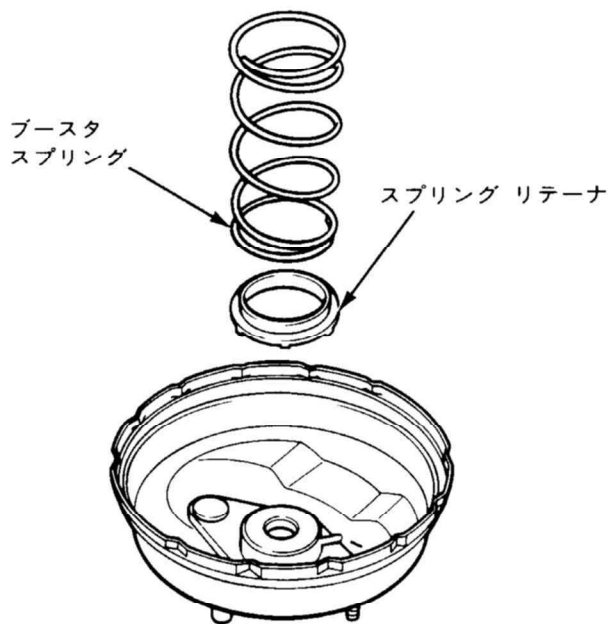
分解

注意 分解した部品は、ゴミやホコリがつかないように整理しておく。

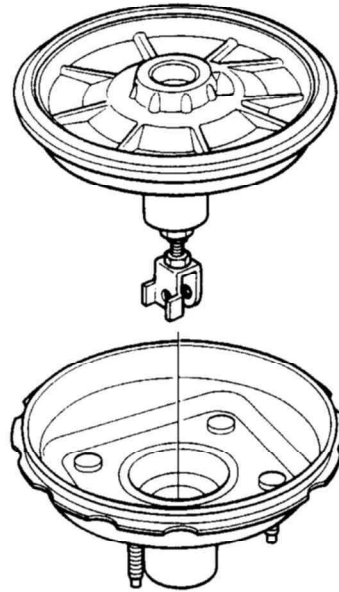
- ①組立て時の目印にするため、ブースタ ボディとブースタ ハウジングにマークをつける。
- ②ブースタ ボディに専用工具(ブレーキ ブースタ ホルダ)を取付け、ナットで固定し、バイスでくわえる。
- ③専用工具 (パワー ユニット ハンドル) をブースタ ハウジングに取付け、ナットで固定する。
- ④パワー ユニット ハウジングを左にまわして、ブースタ ボディとハウジングを分離する。



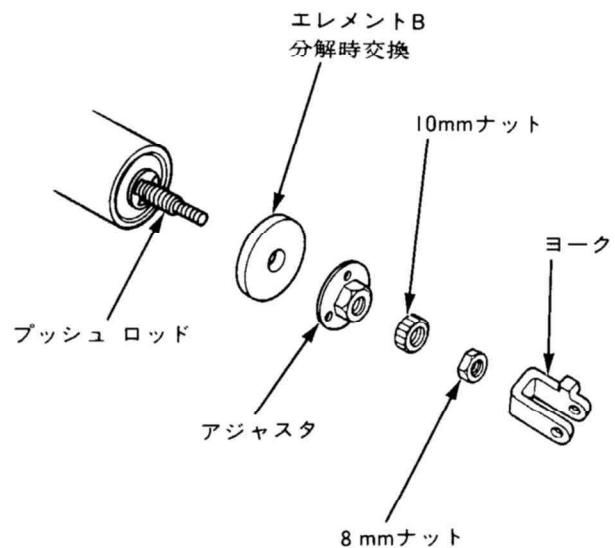
- ⑤スプリング リテーナ、ブースタ スプリングを取外す。



- ⑥ブースタ ハウジングから、ブースタ ピストン、ダイヤフラムその他のアセンブリを取外す。



- ⑦プッシュ ロッド上の 8 mm ナット、10mm ナットをゆるめる。
- ⑧プッシュ ロッドから、ヨーク、8 mm ナット、10mm ナット、アジャスタ、エレメント B を取外す。

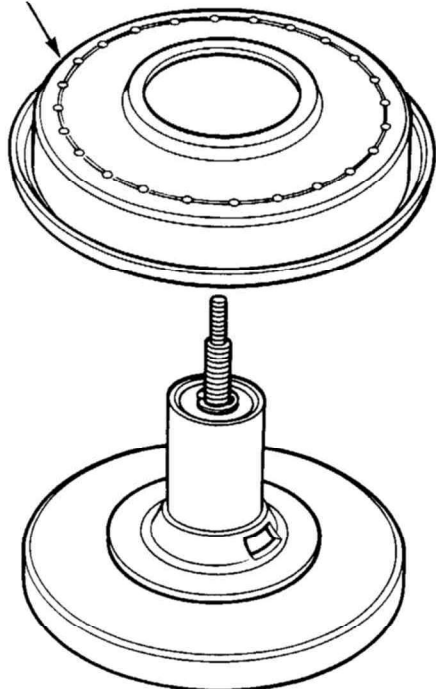


マスタ パワー

分解

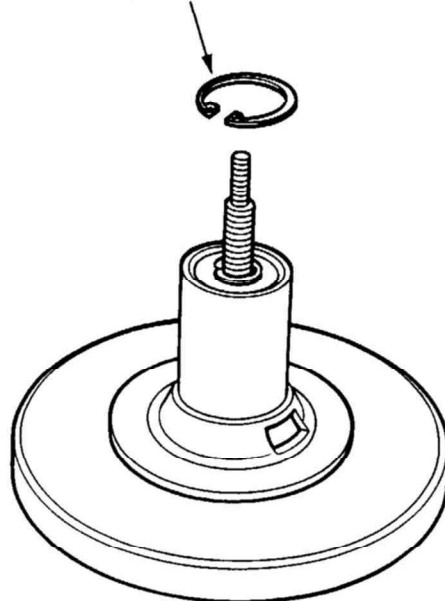
⑨ ブースタ ピストンから、ダイヤフラムを取外す。

ダイヤフラム
分解時交換

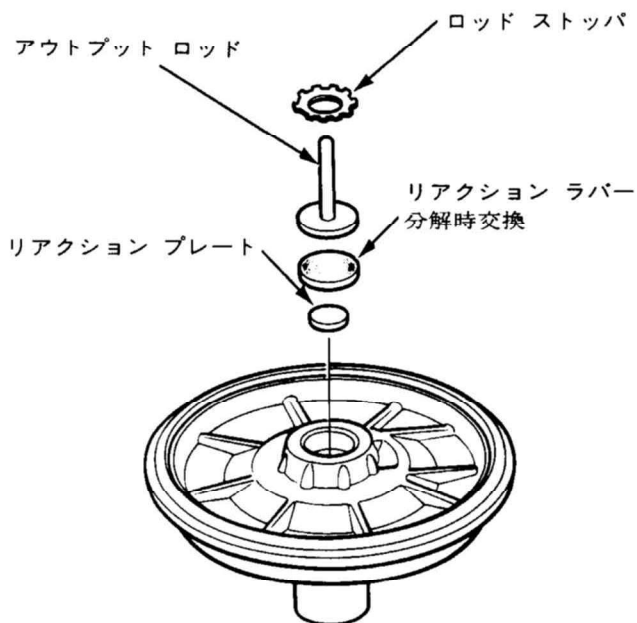


⑩ ブースタ ピストンからスナップ リングを取外す。

スナップ リング
分解時交換

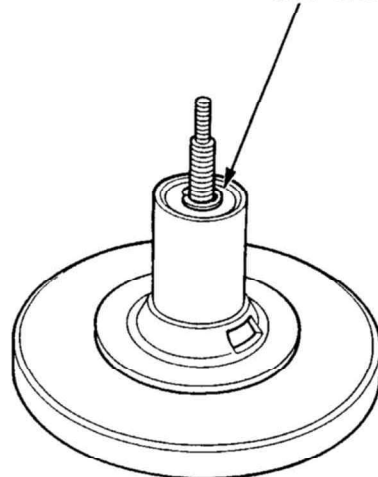


⑪ ブースタ ピストンから、ロッド ストップを取外し、アウトプット ロッド、リアクション ラバー、リアクション プレートを取外す。

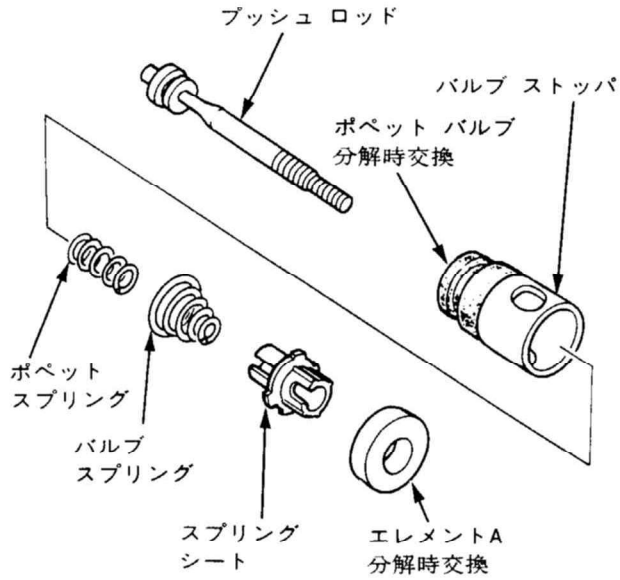


⑫ プッシュ ロッド上のEリングを外し、プッシュ ロッド アセンブリを取外す。

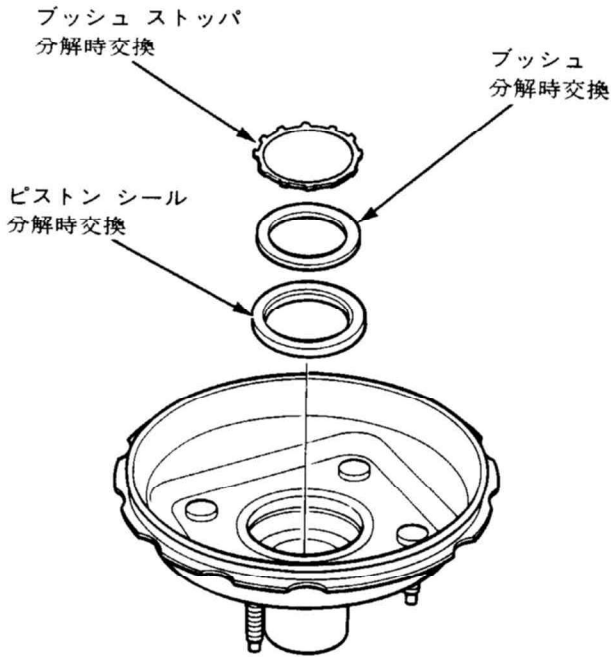
Eリング
分解時交換



⑬プッシュ ロッドから、エレメントA(フェルト)、スプリング シート、バルブ スプリング、ポペット スプリング、バルブ ストップ、ポペット バルブを取外す。



⑭プースタ ハウジングから、ブッシュ ストップを取外し、ピストン シール、ブッシュを取外す。



リペア キット

ピストン シール



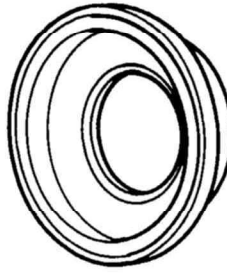
ブッシュ



ブッシュ ストップ



ダイヤフラム



ポペット バルブ



Eリング



エレメント A (フェルト)



エレメント B



スナップ リング



リアクション ラバー



シリコン グリース



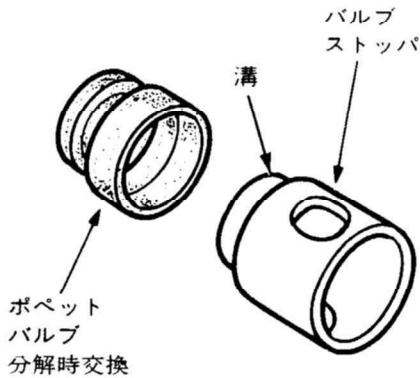
マスタ パワー

組立て

注意

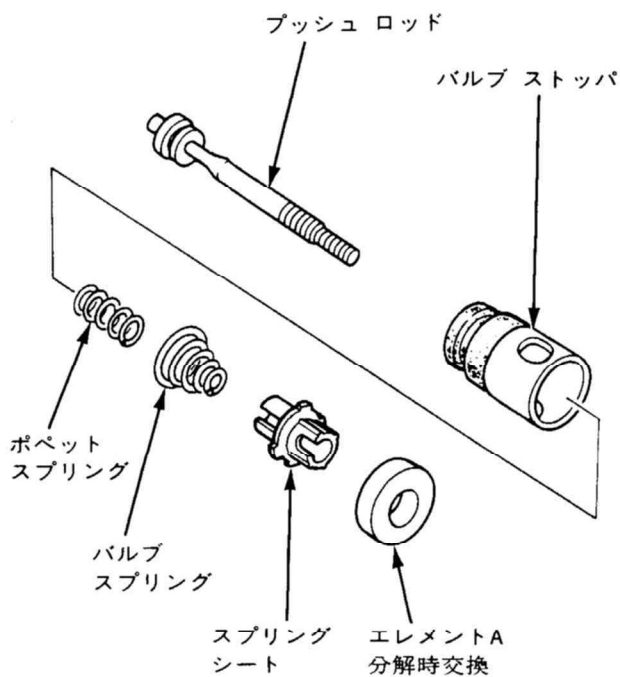
- ・各部品にゴミやホコリがついていないことを確認してから、組立て作業を行うこと。
- ・交換を指定されている部品は、必ず交換すること。

①バルブ ストップの溝に、ポペット バルブを取付ける。

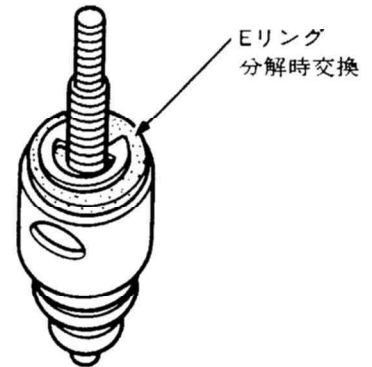


②バルブ ストップにプッシュ ロッドを差し込み、プッシュ ロッド上にポペット スプリング、バルブ スプリング、スプリング シート、エレメントAを取付ける。

- ＊・バルブ スプリングは小径側をエレメントAの方に向ける。
- ・スプリング シートは筒の短い方をエレメントA側に向ける。

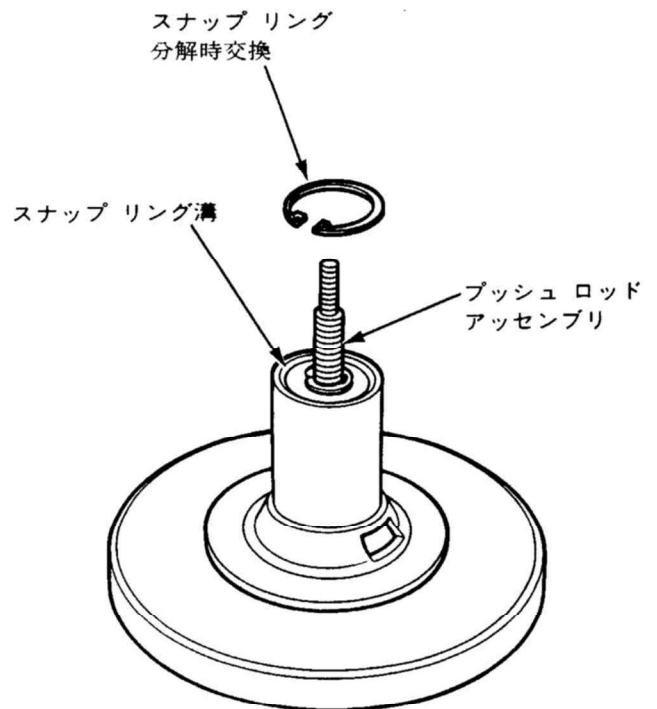


③スプリング シートを押し、プッシュ ロッドの溝にEリングを取付ける。

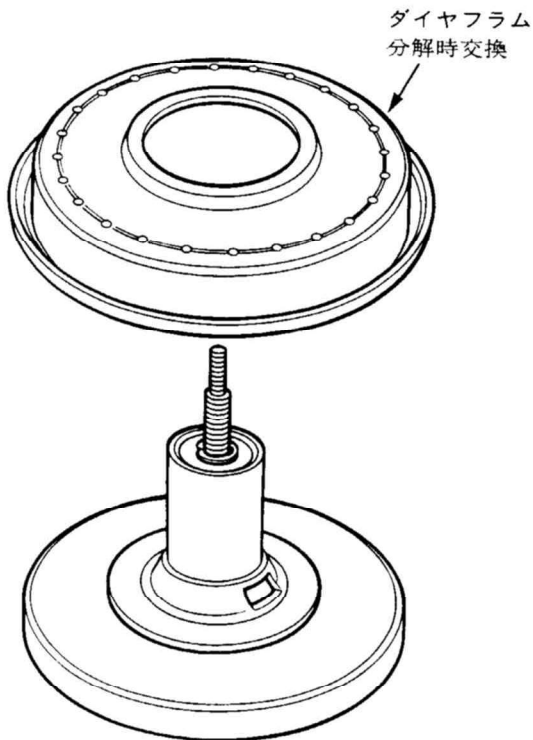


④ブースタ ピストンの内側に、シリコン グリース(信越化学G40M)を塗布する。

⑤プッシュ ロッド アセンブリをブースタ ピストンに差し込み、スナップ リングを取付ける。

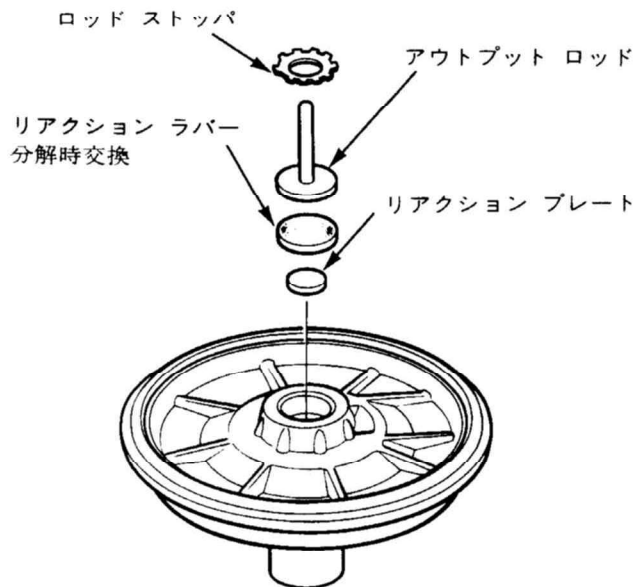


⑥ダイヤフラムをブースタピストンに取付ける。

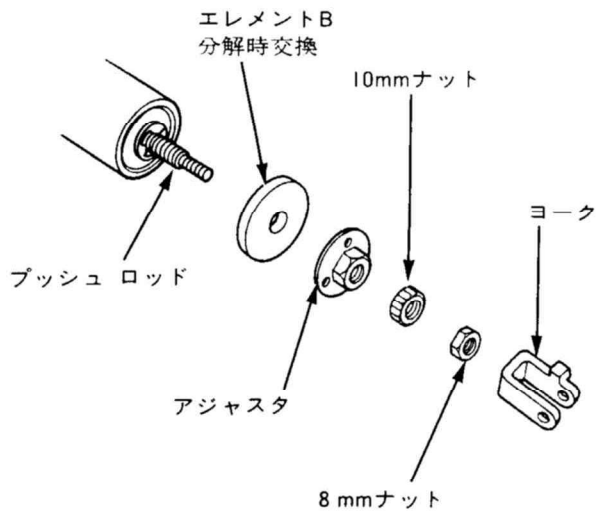


⑦ブースタピストンにリアクションプレート、リアクションラバー、アウトプットロッド、ロッドストップを取付ける。

- *・リアクションプレートは平らな方をラバー側にする。
- ・ロッドストップの向きは、図参照のこと。



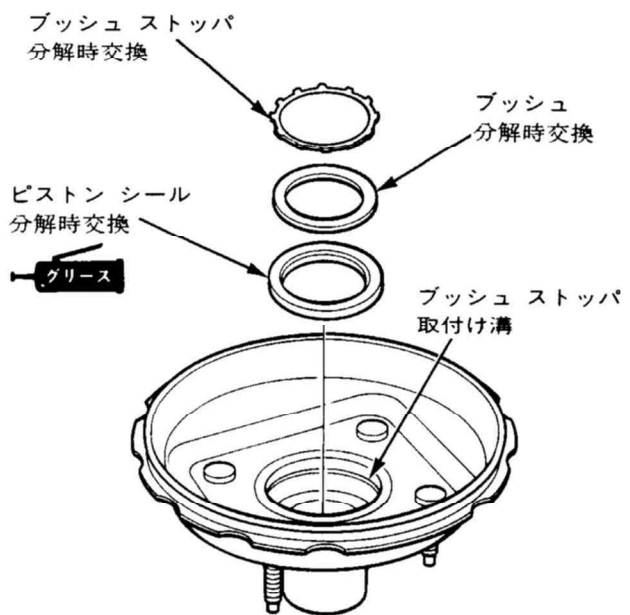
⑧プッシュロッドに、エレメントB、アジャスタ、10mmナット、8mmナット、ヨークを取付ける。



⑨ピストンシールに、シリコングリース(信越化学 G40M)を塗布し、ピストンシールとプッシュを取付ける。

⑩専用工具を用いて、プッシュストップをブースタハウジングの溝に取付け、ピストンシールとプッシュを固定する。

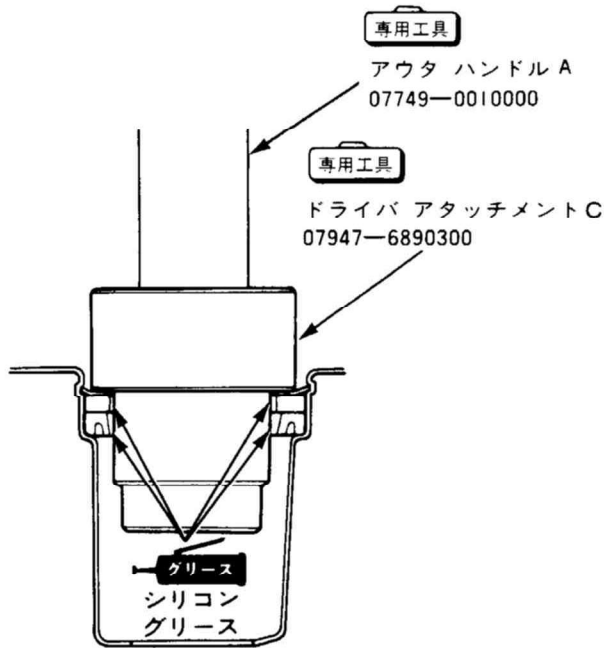
- *・ピストンシールは溝のある方をブレーキペダル側に向ける。
- ・プッシュストップの向きは、図参照のこと。



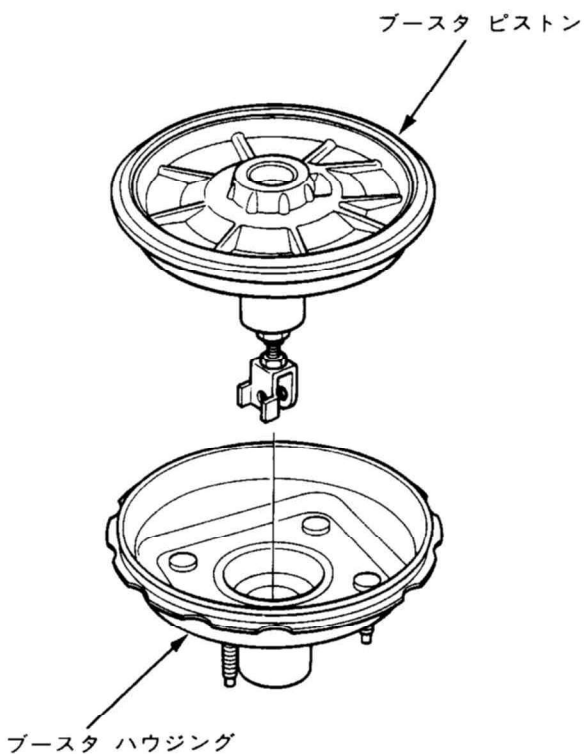
マスタ パワー

組立て

注意 プッシュ ストップを強く圧入すると、ピストン シールが変形するので注意すること。

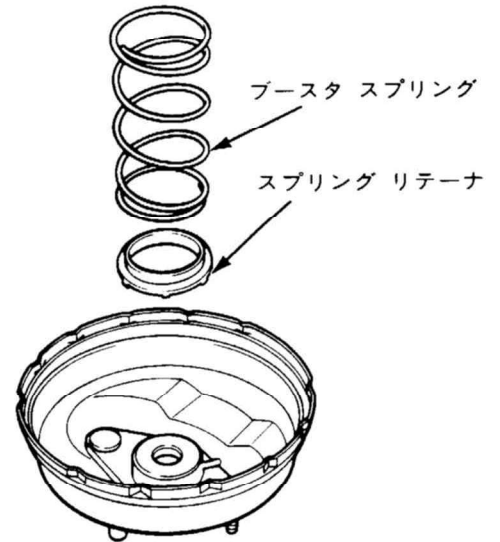


⑪ ブースタ ハウジングにブースタ ピストンを取付ける。



⑫ ブースタ ボディに専用工具(ブレーキ ブースタ ホルダー) をナットで取付け、さらに専用工具をバイスで固定する。

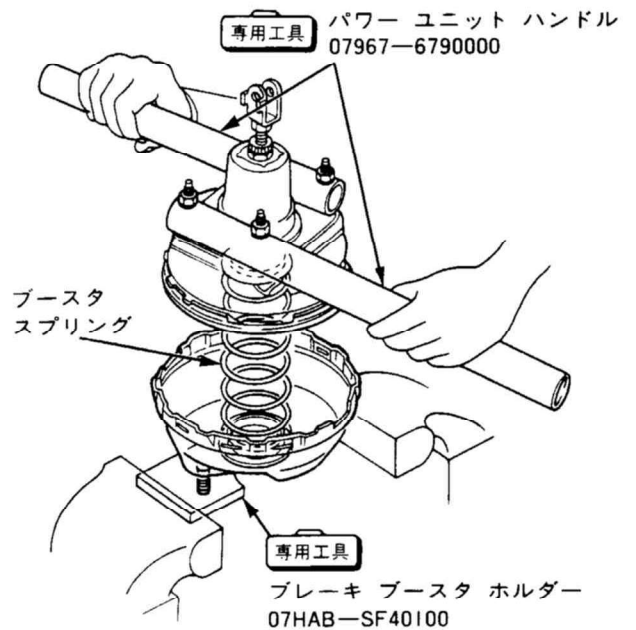
⑬ ブースタ ボディに、スプリング リテーナ、ブースタ スプリングを取付ける。



⑭ ブースタ ハウジングに専用工具 (パワー ユニット ハンドル) を取付ける。

⑮ ブースタ ハウジングを下に押し、分解前につけたマークを目安に、ブースタ ハウジングがブースタ ボディのストップに当たるまで、右にまわして組立てる。

*****ダイヤフラムが変形して取付けられていないことを確認する。



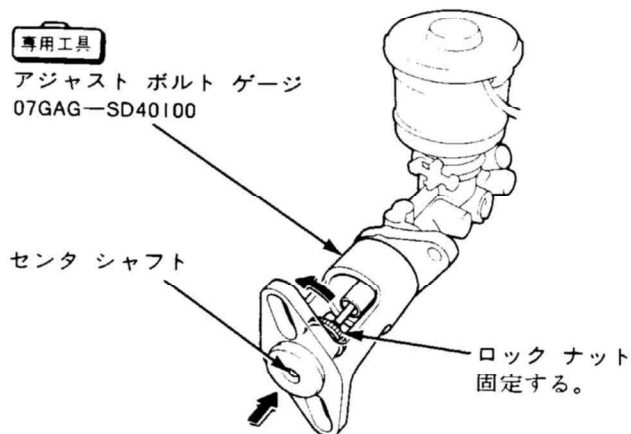
プッシュ ロッド クリアランスの点検、調整

注意 マスタ パワーのプッシュ ロッドとピストンのクリアランスの点検、調整は、マスタ シリンダ組付け前に必ず行う。

①アジャスト ボルト ゲージ (専用工具) をマスタ シリンダに密着させ、アジャスト ボルト ゲージのセンタ シャフトの先端をマスタ シリンダのセカンダリ ピストンの底へ当て、矢印の部分を押し、アジャスト ボルト ゲージのロック ナットで固定する。

専用工具

アジャスト ボルト ゲージ
07GAG-SD40100



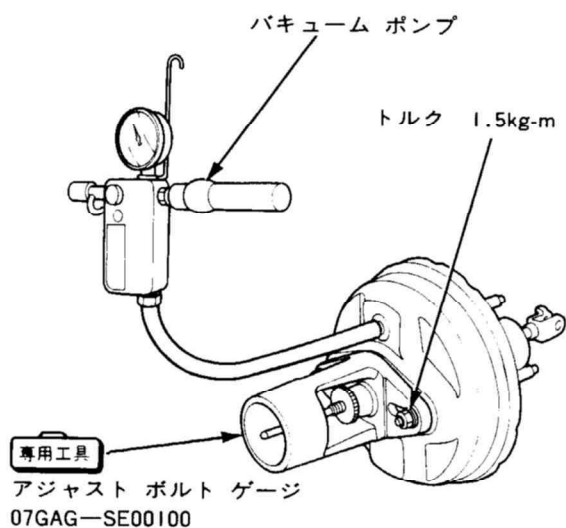
②①でセットしたアジャスト ボルト ゲージをそのまま反転させて、マスタ パワーに取付ける。

注意 確認には、バキュームを用いるので、アジャスト ボルト ゲージは必ず規定トルクで締付ける。

*****ゲージとマスタ パワーの間に、マスタ シリンダのロッド シールを取付ける。

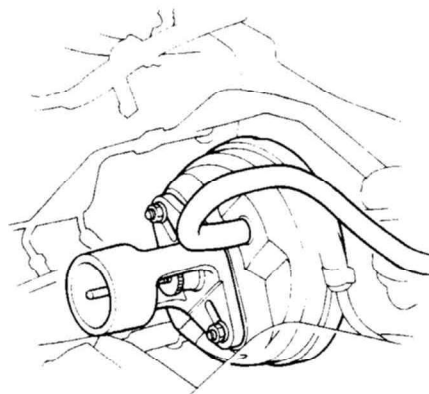
③取外しての調整:

マスタ パワーにバキューム ポンプを接続し、約500 mmHgのバキュームをかける。



車載での調整:

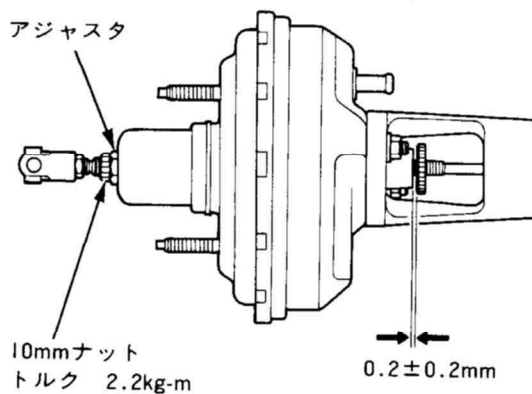
エンジンを始動し、1-2分間回転させた後、エンジンを止める。



④アジャスト ボルトゲージのロック ナットとボディ (矢印の部分) のクリアランスを点検する。

クリアランス: 0.2 ± 0.2 mm

*****アジャスト ボルト ゲージ側のクリアランスが0 mmの場合は、プッシュ ロッド クリアランスが0.4mm以上あり、また逆にアジャスト ボルト ゲージ側のクリアランスが0.4 mmの場合は、プッシュ ロッド クリアランスは0 mmであることを示している。



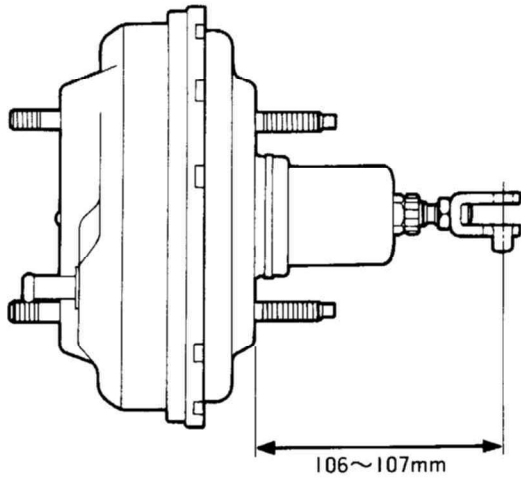
⑤調整は、マスタ パワーのプッシュ ロッド上の10 mmナットをゆるめ、アジャスタを回し、ゲージ側のクリアランスが0-0.4mmになるように調整を行う。

*****アジャスト ボルト ゲージ側のクリアランスが0 mmの場合は、プッシュ ロッド クリアランスが0.4mm以上の場合があるので必ず調整し、再点検を行うこと。

マスタ パワー

—プッシュ ロッド ヨークの調整—

プッシュ ロッド上のヨークの寸法を下図のようにしておく。



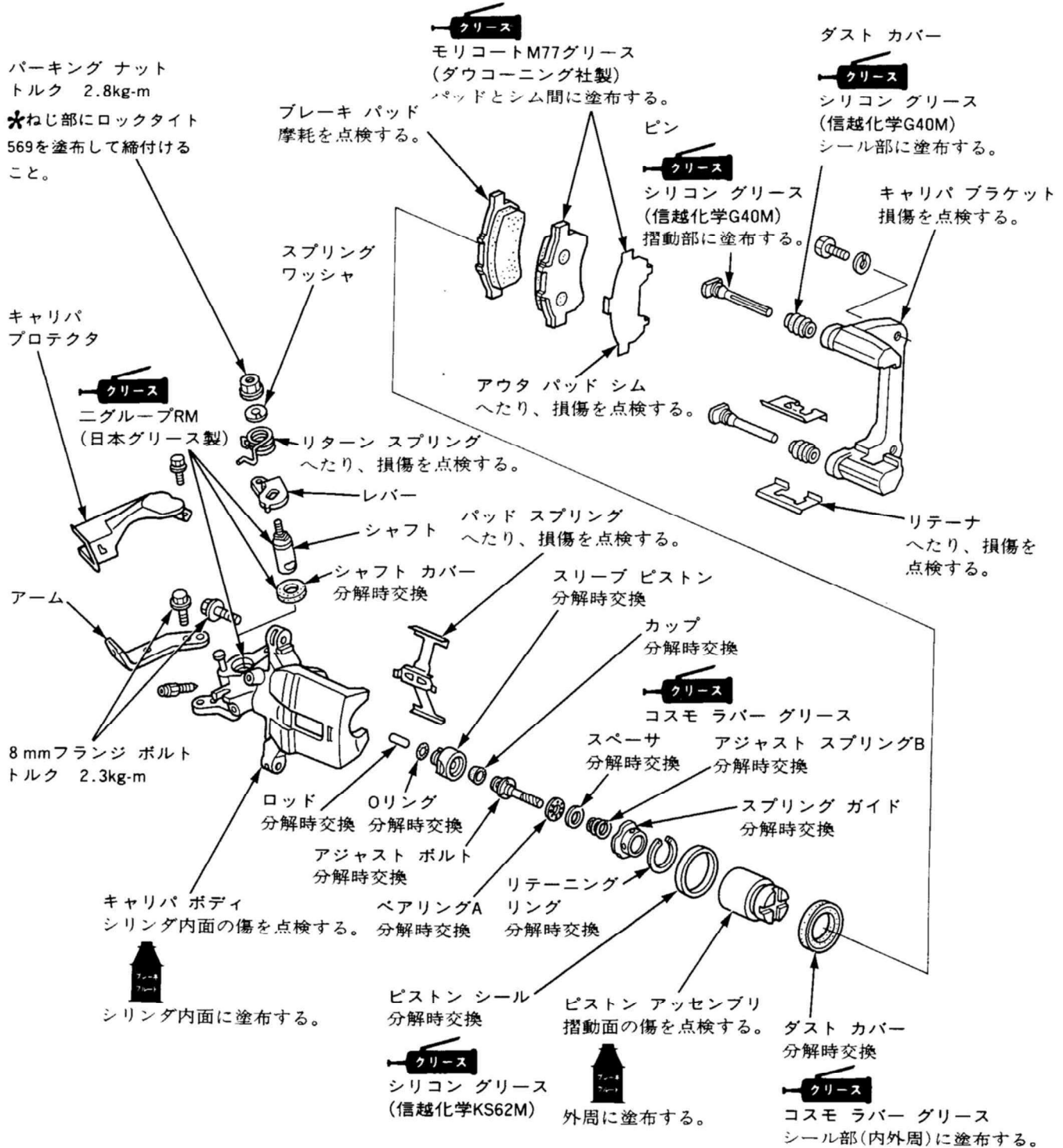
注意 8mmナットを仮締めとしておき、必ずブレーキペダルの高さ調整を行うこと(13-4頁参照)。

リヤ ディスク ブレーキ

展開図、点検

注意

- ・交換が指定されている部品は必ず新品に交換する。
- ・シリンダ内、ピン摺動部およびダスト カバー内部に異物を混入させないこと。
- ・パッドの制動面にブレーキ フルード、油脂類を付着させないこと。
- ・分解した部品は、ゴミやホコリが付かないように整理しておく。



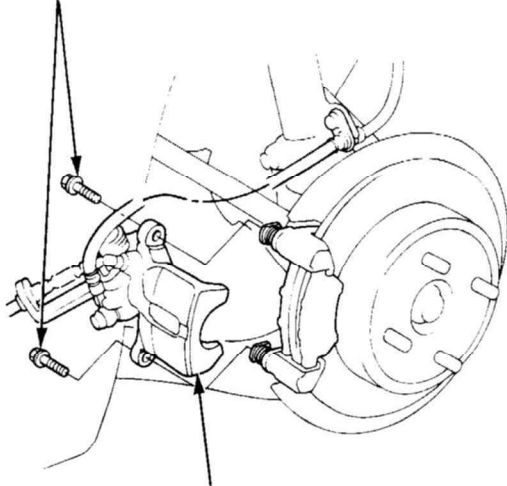
リヤ ブレーキ パッド

点検、交換

- ① 8 mm フランジ ボルトを外し、キャリパ ボディをブラケットから取外す。

注意 ブレーキ ホースでキャリパを吊り下げないこと。ブレーキ ホースをブラケットおよび周辺部で損傷させないこと。

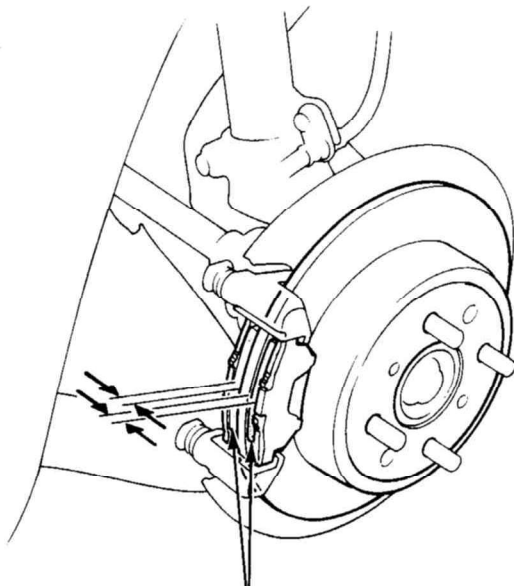
8 mm フランジ ボルト



キャリパ ボディ

- ② パッドの厚さが使用限度値以下の場合は、内側と外側のパッドをセットで交換する。

*****パッドを交換した場合、最初にブレーキ ペダルを踏むと、ペダル ストロークが深くなるが異常ではない。数回踏むとペダルが上がってくる。



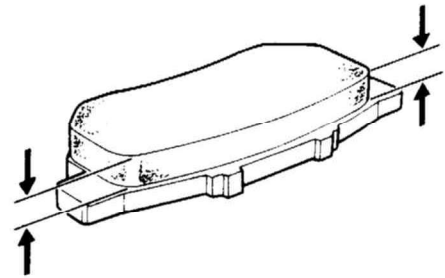
ブレーキ パッド

ブレーキ パッドおよびアウト パッド シムを外して、パッドの厚さを点検する。

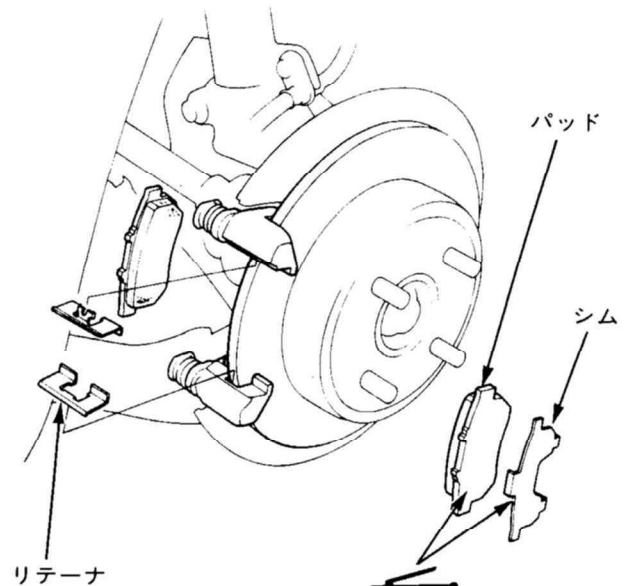
パッドの厚さ：

標準値：7.5mm

限度値：1.6mm



- ③ リテーナ、キャリパ ブラケットを清掃する。
④ リテーナをキャリパ ブラケットに取付ける。
⑤ アウト パッドとアウト パッド シム間にモリコート M77 グリースを塗布し、シムをパッドに装着する。
注意 シム装着時、パッドとシムからグリースがはみ出さないようにすること。
⑥ パッドをキャリパ ブラケットに取付ける。



グリース

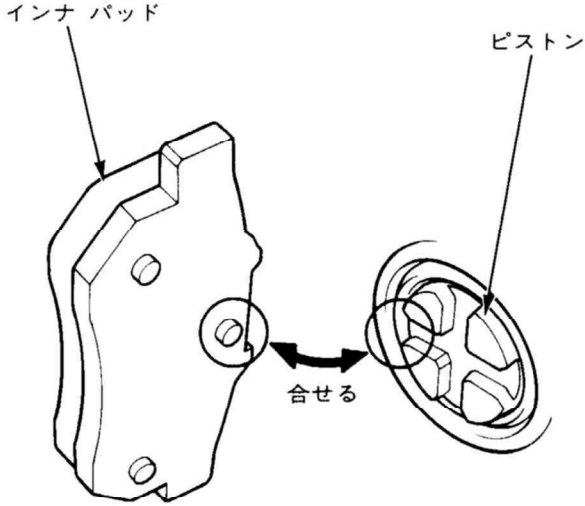
モリコート M77 グリース
(ダウコーニング社製)

リヤ ブレーキ キャリパ

分解

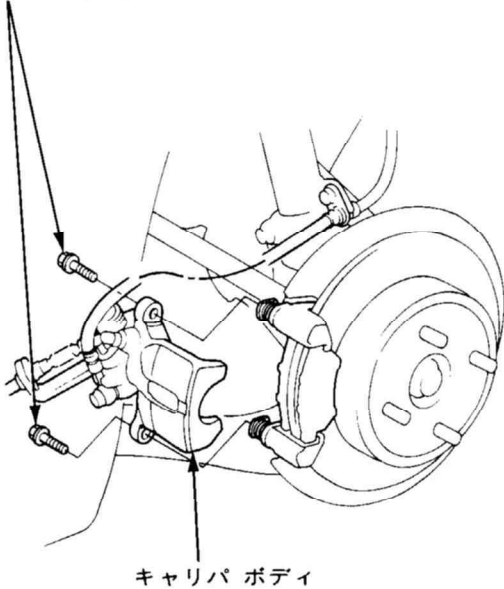
⑦ピストンを回してシリンダ内にねじ込み、インナパッドの凸部にピストンの凹部が合うようにする。

注意 ダストカバーを損傷しないように注意すること。



⑧キャリパボディをブラケットに取付ける。

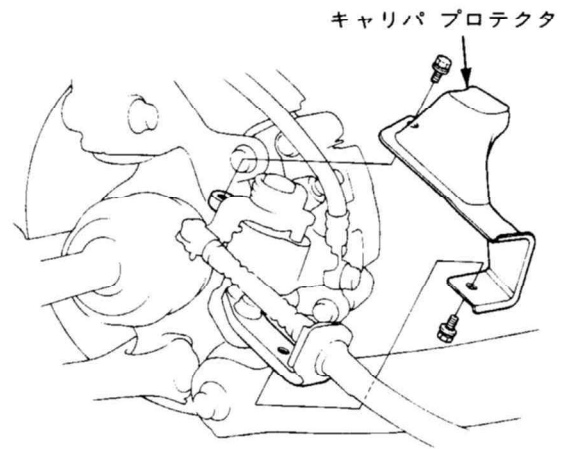
8 mm フランジ ボルト
トルク 2.3kg-m



注意

- ・ブレーキフルードは塗装面を傷めるので、部品類に付着させないこと。付着した場合は、すぐに水で洗い流すこと。
- ・ブレーキフルードの流出を防ぐため、ホース、ジョイント部をカバーしておくこと。
- ・分解した部品はブレーキフルードで洗浄し、圧縮空気等により各ポートの通気を確認すること。
- ・分解した部品は、ゴミやホコリが付かないように整理しておくこと。

①キャリパプロテクタを取外す。



②レバーからパーキングブレーキケーブルの接続を外す。

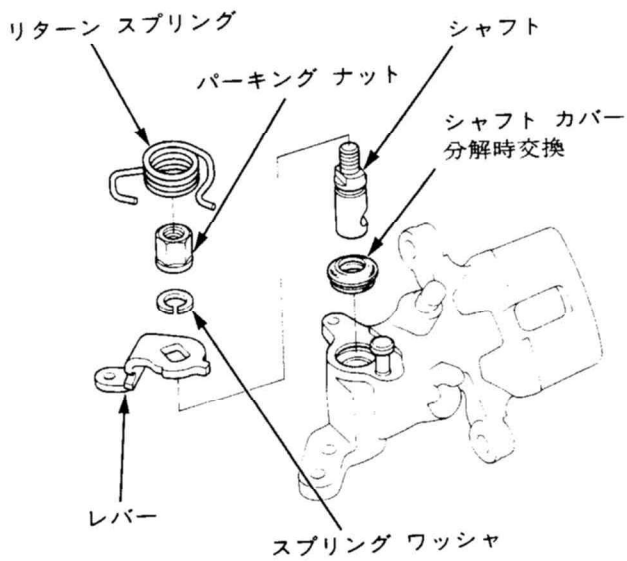
③パーキングブレーキケーブルをアームから外し、アームをキャリパから取外す。



リヤ ブレーキ キャリパ

分解

- ⑯リターン スプリングを取外す。
- ⑰パーキング レバーとシャフトを一体で取外す。
注意 シャフトをキャリパに取付けたまま、パーキング ナットをゆるめないこと。レバーとシャフトを分割する場合、レバーをバイスに固定してナットをゆるめること。
- ⑱シャフト カバーを取外す。

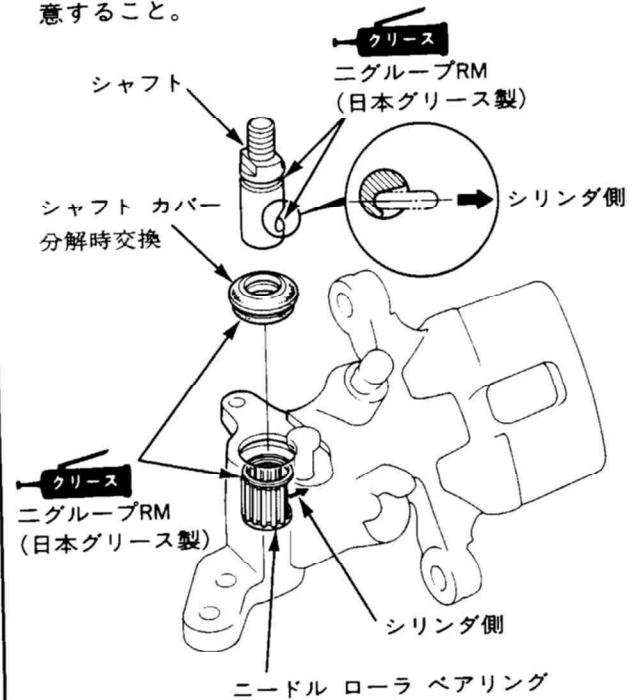


組立て

注意

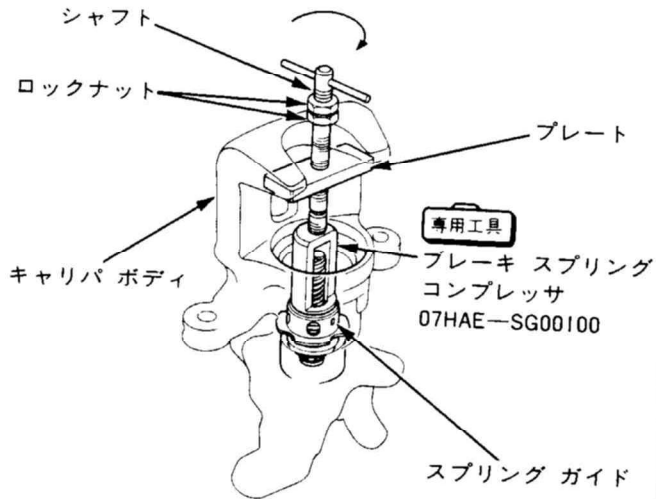
- ・各部品にゴミやホコリが付いていないことを確認してから、組立て作業を行うこと。
- ・交換が指定されている部品は、必ず交換すること。
- ・ブレーキフルード補給時に、ゴミや水を混入させないこと。
- ・化学変化を防止するため、銘柄の異なるブレーキフルードを使用しないこと。
- ・ブレーキフルードはDOT 3 または DOT 4 を使用すること。
- ・抜取ったブレーキフルードは再使用しないこと。
- ・ブレーキフルードは塗装面を傷めるので、部品類に付着させないこと。付着した場合は、すぐに水で洗い流すこと。

- ①キャリパ ボディのニードル ローラ ベアリングにニグリーブRM(日本グリース製)を塗布する。
注意 ニードル ローラ ベアリングの切欠き部がシリンダ側を向いていることを確認する。
- ②新品のシャフト カバーのシール部にニグリーブRM(日本グリース製)を塗布し、キャリパ ボディに取付ける。
- ③シャフトのロッド取付け部と溝部にニグリーブRM(日本グリース製)を塗布し、ロッド取付け部をシリンダ側に向けてキャリパ ボディに取付ける。
注意 シャフト カバーを損傷させないように注意すること。



⑨専用工具(ブレーキ スプリング コンプレッサ)をキャリパ ボディ内のスプリング ガイド上にセットする。

⑩ロックナットをシャフトの上部に移動しておき、プレートがキャリパ ボディに接するまでシャフトを右に回す。

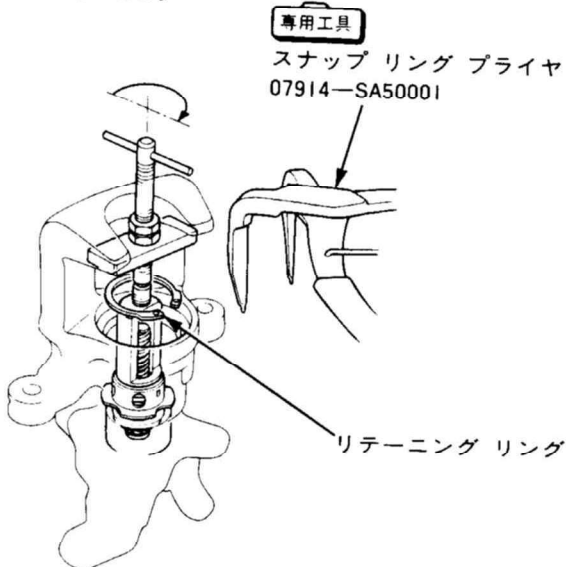


⑪ロックナットを回してプレートにあて、シャフトを1/4-1/2回転右に回してアジャスト スプリングBを圧縮する。

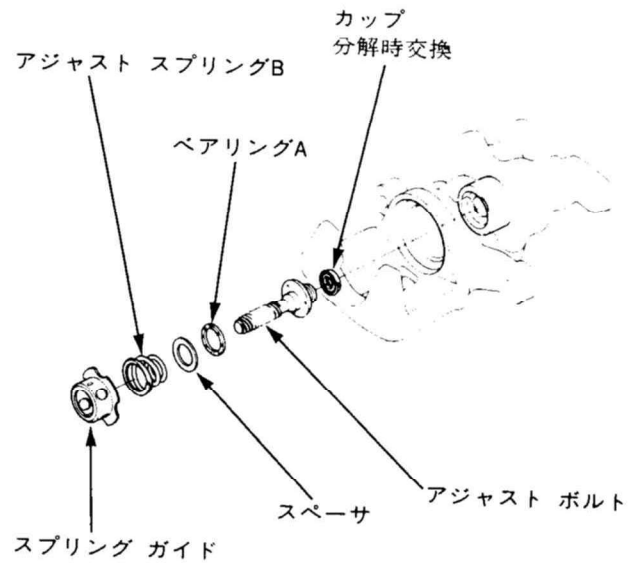
⑫専用工具(スナップ リング プライヤ)を使用してリテーニング リングを取外す。

⑬下側のロックナットを押さえて上側のロックナットを締付け、位置を固定しておく。

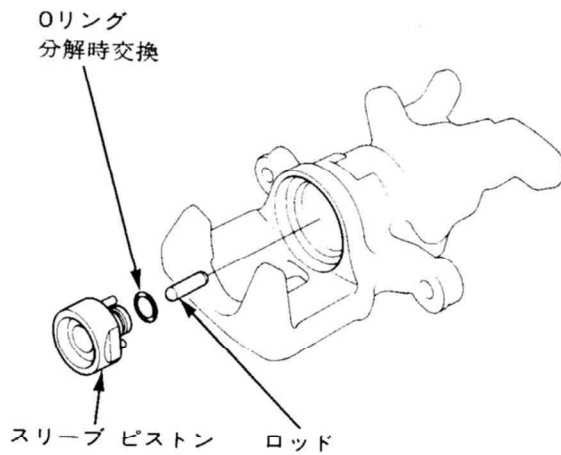
*リテーニング リングを組付けるまでロックナットの位置をずらさないこと。



⑭専用工具(ブレーキ スプリング コンプレッサ)を取外し、スプリング ガイド、アジャスト スプリング B、スペーサ、ベアリングA、アジャスト ボルト、カップを取外す。



⑮スリーブ ピストンを外し、シャフトからロッドを取外す。



リヤ ブレーキ キャリパ

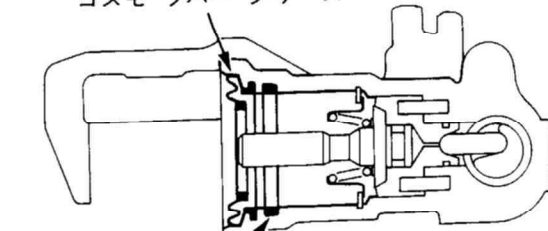
組立て

⑪新品のピストン シールにシリコン グリース(信越化学KS62M)を塗布して、キャリパ ボディの溝に取付ける。

⑫新品のダスト カバーのシール部(内外周)にコスモ ラバー グリースを塗布して、キャリパ ボディの溝に取付ける。

ダスト カバー
分解時交換

クリース
コスモ ラバー グリース



ピストン シール
分解時交換

クリース
シリコン グリース
(信越化学KS62M)

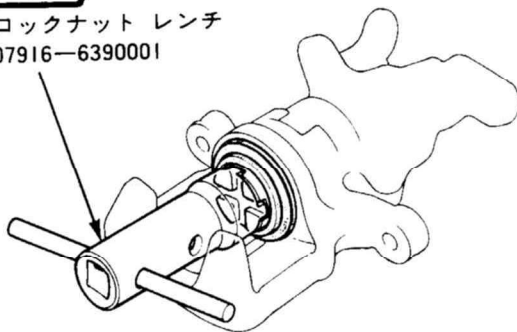
⑬ピストン外周にブレーキ フルードを塗布し、ダスト カバーを開いてピストンの中に入れる。

注意 ダスト カバーを損傷させないように注意すること。

⑭専用工具でピストンを右に回してアジャスト ボルトに組付ける。

注意 ピストン、ダスト カバーを損傷しないように注意すること。

専用工具
ロックナット レンチ
07916-639001

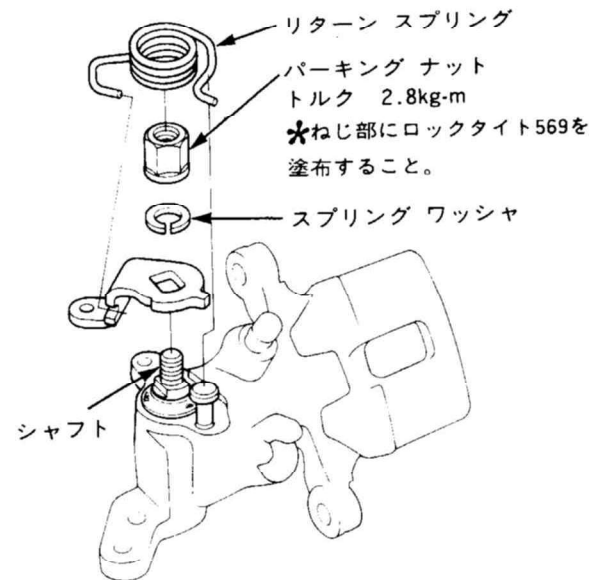


⑮パッド スプリングをキャリパ ボディに取付ける。

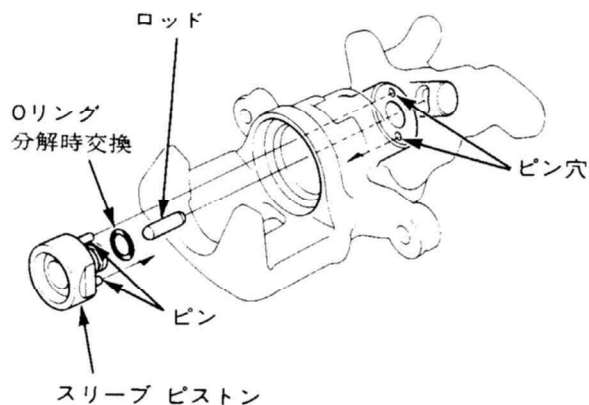


⑯パーキング レバーとシャフトを分割している場合、以下の要領で組立てる。

- 1. シャフトにレバー、スプリング ワッシャを取付ける。
- 2. シャフトまたはパーキング ナットのねじ部にロックタイト569を塗布し、パーキング ナットを仮締めする。(締め付けは、キャリパ アッセンブリをディスクに仮付けしてから行うこと。)
- 3. リターン スプリングを取付ける。

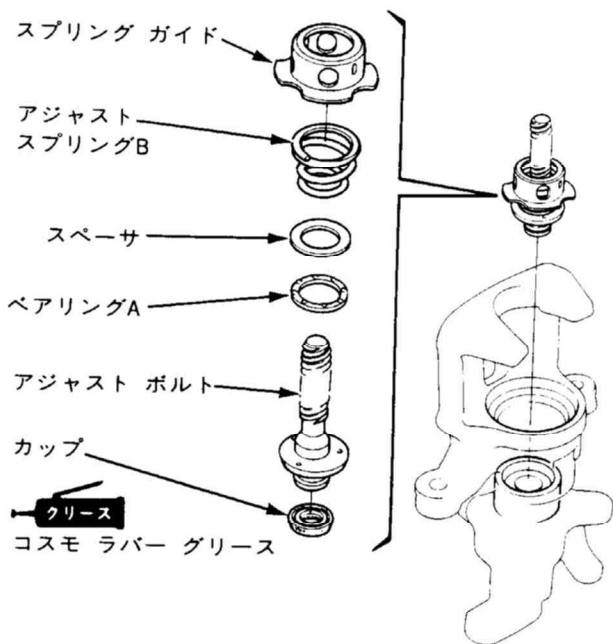


- ④新品のロッドをシャフトに取付け、中央を向くようにセットする。
- ⑤新品のスリーブ ピストンに新品のOリングを取付ける。
- ⑥スリーブ ピストン下部の穴にロッドが入るように、またスリーブ ピストンの2本のピンをキャリパ ボディの2個の穴に合わせて取付ける。

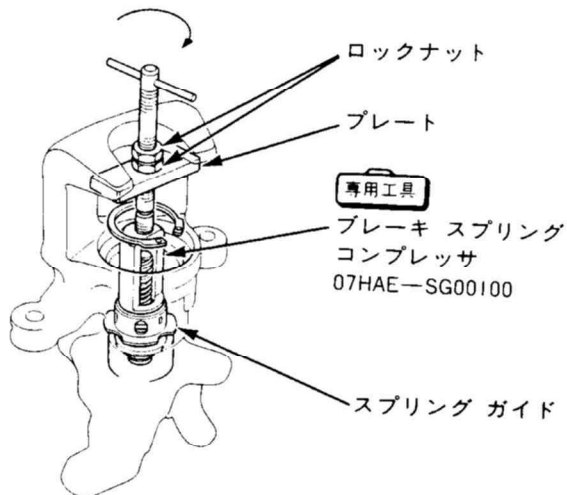


- ⑦新品のカップにコスモ ラバー グリースを塗布し、アジャスト ボルトに組付ける。ベアリングA、スペーサ、アジャスト スプリングB、スプリング ガイドをアジャスト ボルトに組付け、シリンダ内へ取付ける。

注意 カップは溝のある方をベアリングA側に向けて取付ける。

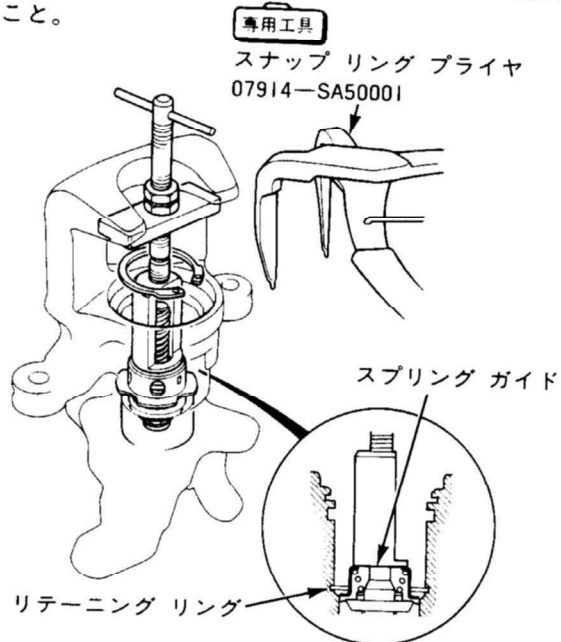


- ⑧キャリパ ボディ内のスプリング ガイド上に専用工具(ブレーキ スプリング コンプレッサ)を取付け、プレートがロックナットに当るまでシャフトを右に回す。(分解時⑪~⑬で合わせた位置までアジャスト スプリングを圧縮する。)
- ⑨スプリング ガイドの裾がキャリパ ボディのリテーニング リング取付け溝より下の位置にあることを確認する。



- ⑩専用工具(スナップ リング プライヤ)を使用してリテーニング リングを取付ける。専用工具(ブレーキ スプリング コンプレッサ)を取外す。

注意 リテーニング リングがキャリパ ボディの溝に確実に入っているかどうか、ライト等で確認すること。



リヤ ブレーキ ディスク

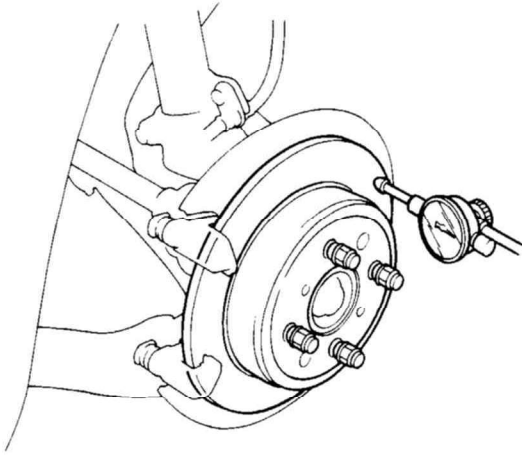
振れの点検

- ①ホイール ボルトに 3 mm厚くらいのワッシャを通し、ホイール ナット (12×1.5mm)でディスクを確実に固定する。
- ②ディスクの外周から約10mm中央よりの位置に、下図のようにダイヤル ゲージを当てる。
- ③手でディスクをゆっくり回して振れを測定する。

ブレーキ ディスクの振れ:

限度値 : 0.15mm

限度値以上の場合は、ハブ ベアリングを点検し、異常がなければブレーキ ディスクを交換する。



厚さおよび平行度の点検

- ①ブレーキ ディスクの厚さを、ディスクの外周から10 mmの位置で、約45°間隔で8箇所測定する。

ブレーキ ディスクの厚さ:

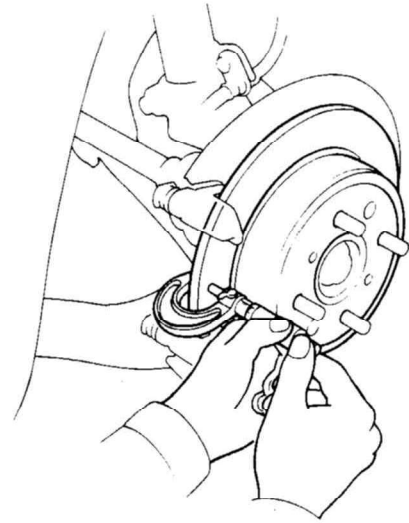
標準値 : 9.0mm

限度値 : 8.0mm

ブレーキ ディスクの平行度(各測定値の差の最大値):

限度値 : 0.015mm

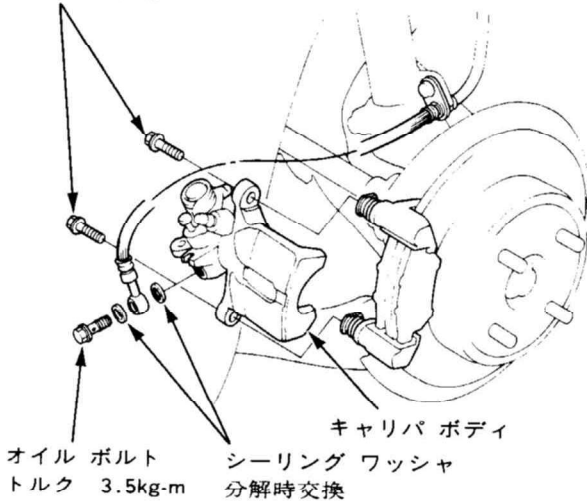
限度値を外れる場合は、ブレーキ ディスクを交換する。



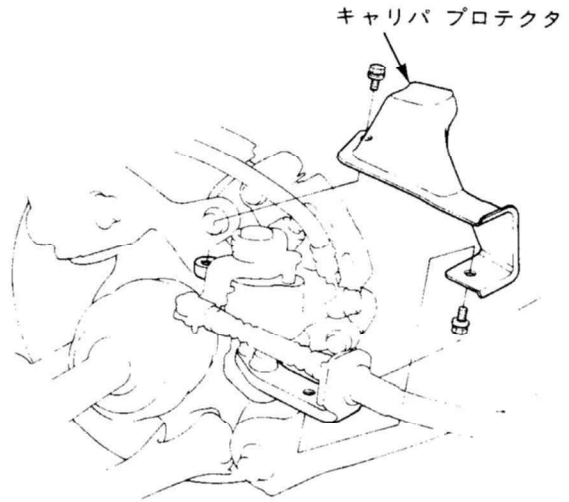
- ②ブレーキ ディスクの摺動面の傷、亀裂、段付き摩耗を点検する。

- ⑰ピストンの凹部をインナパッドの凸部に合わせて、キャリパボディをブラケットに取付ける(13-31頁参照)。
- ⑱ブレーキホースをオイルボルトと新品のシーリングワッシャで取付ける。

8 mmフランジボルト
トルク 2.3kg-m

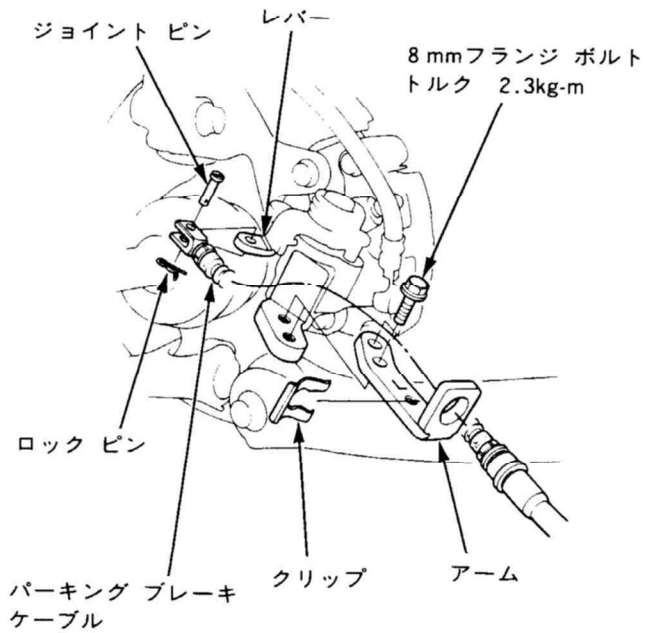


- ⑳キャリパプロテクタを取付ける。



- ㉑エア抜きを行う(13-12頁参照)。

- ⑲アームをキャリパボディに取付け、パーキングブレーキケーブルをアームに取付ける。
- ㉒パーキングブレーキケーブルをレバーに接続する。



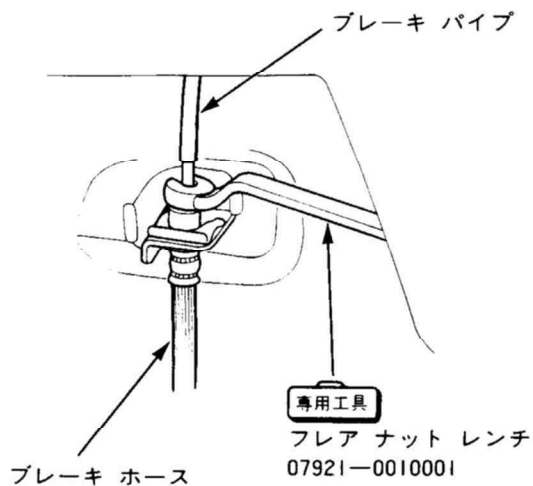
ブレーキ ホース、パイプ

交換

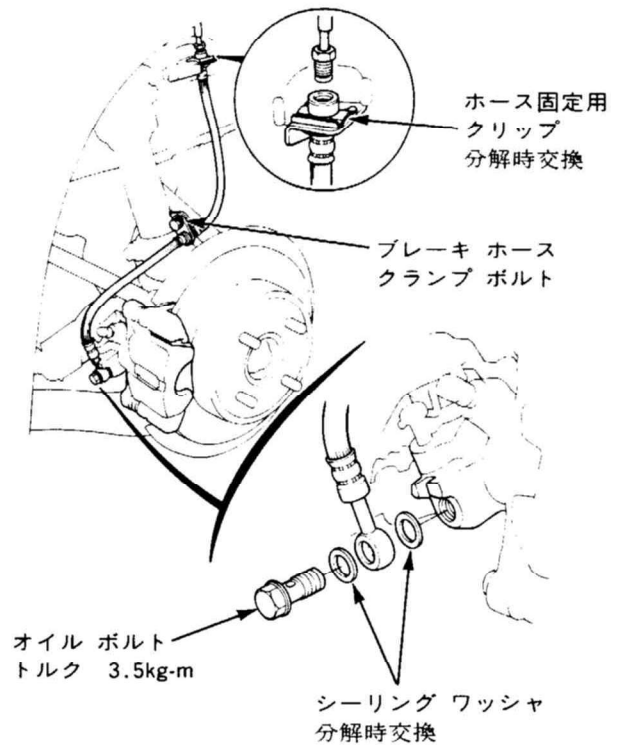
注意

- ・各部品にゴミやホコリが付いていないことを確認してから、組立て作業を行うこと。
- ・交換が指定されている部品は、必ず交換すること。
- ・ブレーキフルード補給時に、ゴミや水を混入させないこと。
- ・化学変化を防止するため、銘柄の異なるブレーキフルードを使用しないこと。
- ・ブレーキフルードはDOT 3 または DOT 4 を使用すること。
- ・抜取ったブレーキフルードは再使用しないこと。
- ・ブレーキフルードは塗装面を傷めるので、部品類に付着させないこと。付着した場合は、すぐに水で洗い流すこと。

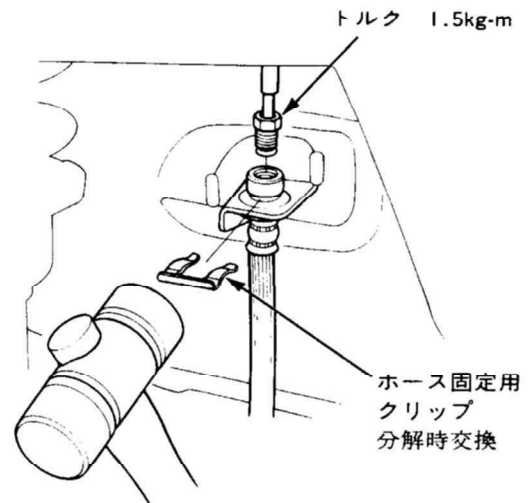
①ブレーキホースからブレーキパイプの接続を外す。



- ②ブレーキホースの溝からホース固定用クリップを取外す。
- ③ブレーキキャリパからブレーキホースの接続を外す。
- ④ブレーキホースクランプボルトを外し、ブレーキホースを取外す。



- ⑤新品のブレーキホースをクランプボルトでダンパに取付ける。
- ⑥オイルボルトと新品のシーリングワッシャでブレーキホースをキャリパに接続する。
- ⑦新品のホース固定用クリップをブレーキホースの溝に取付けて、ホースを固定する。
- ⑧ブレーキホースにブレーキパイプを接続する。

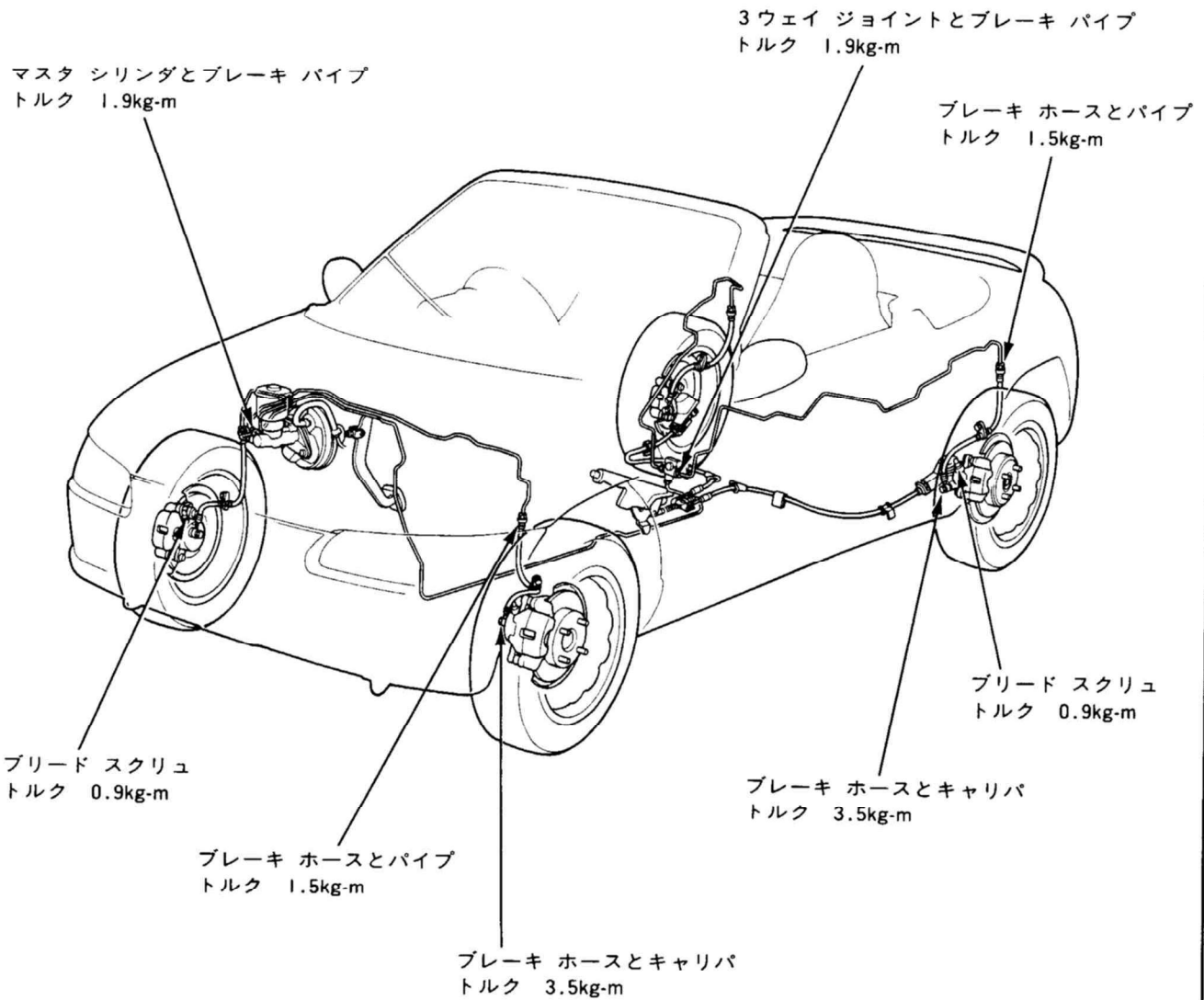


- ⑨エア抜きを行い、ブレーキホースの他の部品との干渉、ねじれ、液漏れのないことを点検する。

ブレーキ ホース パイプ

点検

- ①ブレーキ ホースの損傷、他の部品との干渉、ねじれ、液漏れがないか点検する。
 - ②ブレーキ パイプのつぶれ、曲がり、損傷、腐蝕、液漏れを点検する。
 - ③ホースおよびパイプの結合部に、にじみ、液漏れがないか点検し、必要であれば規定トルクで増締めする。
- ***ブレーキ ホースを交換した場合、ホース固定用のクリップは新品と交換する。



SRSエアバッグ システム-タイプII(ボディを整備するにあたって)

この車にはタイプによりSRSエアバッグ システムが採用されている。SRSエアバッグ システムの整備作業を正しく、安全に行うための情報は、本サービス マニュアルの「16章、SRSエアバッグ システム」にすべて記載してある。

なお、SRSエアバッグ システム以外の整備作業を行うにあたり、SRSエアバッグ システム関連で注意を必要とする項目については、目次に*マークで示してある。

したがって、これらの項目の整備作業は本サービス マニュアルの「16章、SRSエアバッグ システム」のワイヤリング図等を参照し、SRSエアバッグ システムに影響を与えないよう注意して行うこと。

注意

- SRSエアバッグ システムの整備は必ずホンダ販売店で行う。
- SRSエアバッグ システムについて、正しい整備作業を行わなかった場合、または不適正な部品の交換作業を行ったりするとエアバッグが誤作動をしてけがをすることがあるので、十分注意をすること。
- SRSエアバッグ システムのすべてのワイヤ ハーネスには、黄色のカバーを施してあり、他のシステムと区別をしています。これらは、ステアリング コラム、インストルメント パネル内に配線されている。したがって、下記のような場合はSRSエアバッグ システムに影響を与える恐れがあるので、必ずホンダ販売店に相談すること。

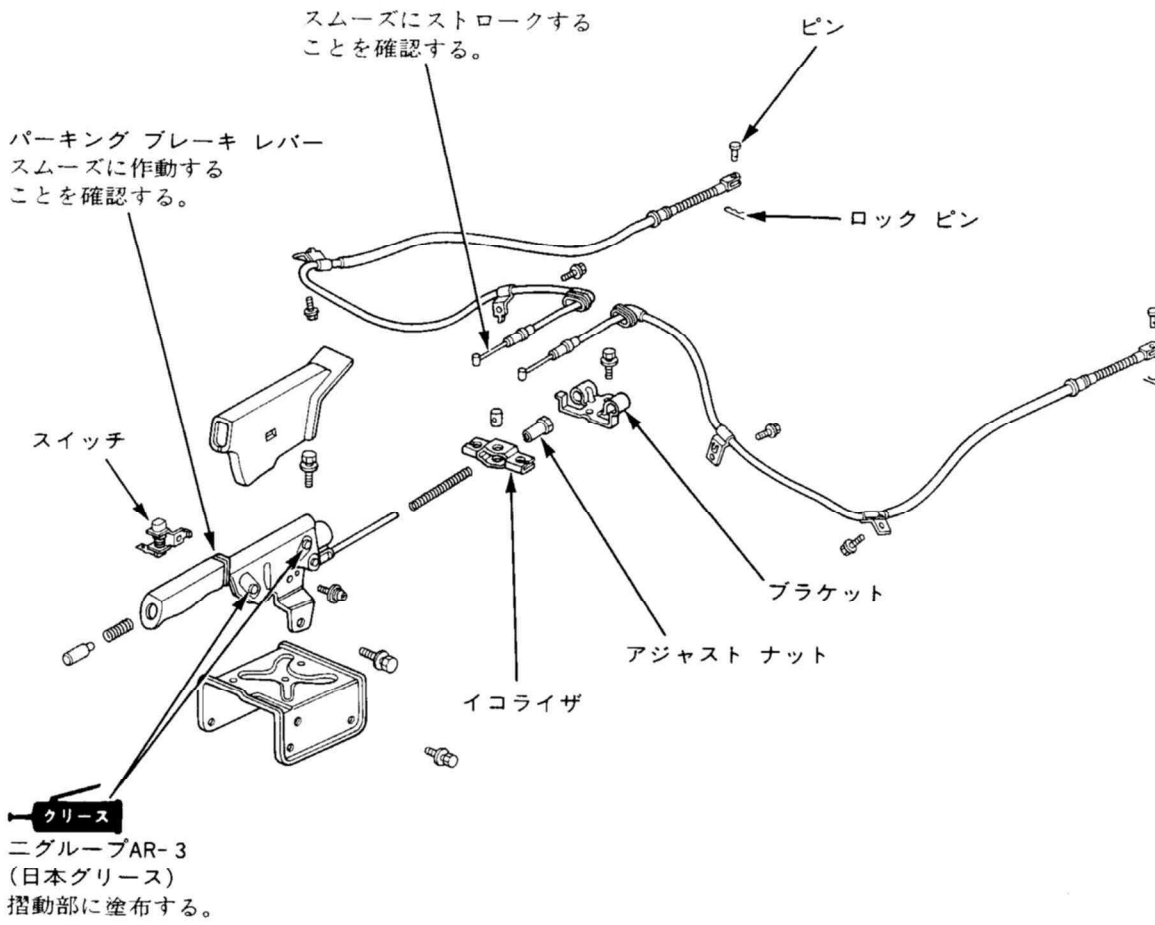
～ハンドル付近の修理。

{ハンドル中央部にはSRSユニット(衝撃感知用センサ)、インフレーター等が取付けられているため、強い衝撃を与えないよう充分注意して下さい。}

～インストルメント パネル右裏側及びヒューズ ボックス付近のワイヤ ハーネス関連の修理。

パーキング ブレーキ ケーブル

分解、組立て



★パーキング ブレーキ ケーブルは、ロック ピンを抜いて、キャリパのレバーとの接続を外し、次にクリップを外す。

